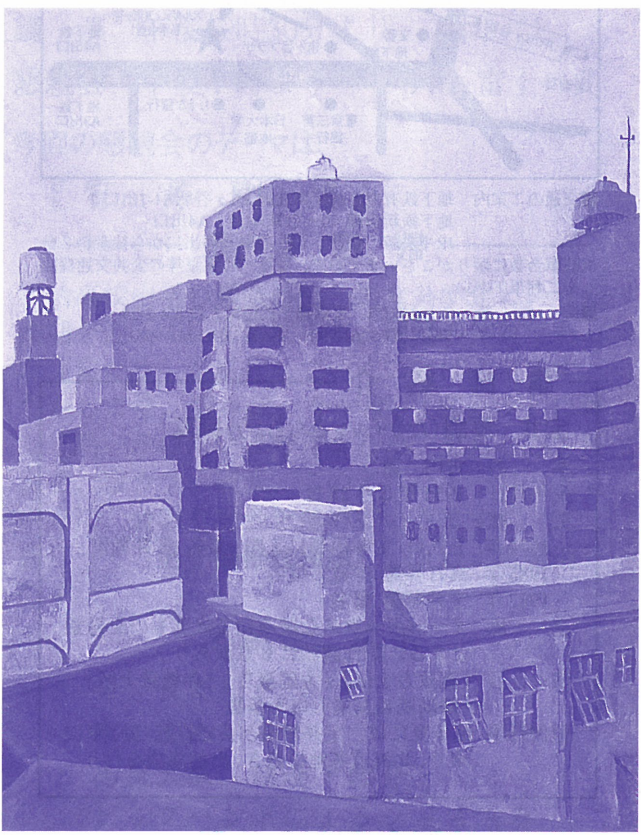
2004

総明会会報



明治高校1号館屋上から水道橋方面の風景

第40回明治大学付属明治高等学校同窓会

総明会

昭和59年開催の第20回総会で命名された。初代校長の鵜澤総明先生のお名前をいただき、かつ明中高同期会と同窓生の総体の連帯を意味するものである。

目　　次

	ページ
総明会総会・懇親会のご案内	1
会長あいさつ	2
校長あいさつ	3
2003年度活動報告	4
2003年度会計報告	5
評議員名簿	6
チャリティゴルフ大会取材	7
明治高校　「男子校根性物語」	9
各同期会クラブＯＢ会だより	53
明治中学・高等学校近況　2003年度体育祭	72
〃　2003年度卒業式	73
〃　2004年度入学式	74
〃文芸賞受賞者　羽田圭介君に聞く	76
次年度幹事学年あいさつ	78
御寄付者一覧	81
前年度幹事学年御礼	83
幹事学年あいさつ	84
編集後記	85
古い顔	86
校　歌	87

表紙…昭和50年 二科展入選作「建物」高倉宏昌氏（昭和52年卒）

『青春の詩』

サムエル・ウルマン　　訳　宇野　収・作山　宗久

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな肢体ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、燃える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは怯懦を退ける勇気、安易を振り捨てる冒険心を意味する。ときには二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い、精神は芥になる。

六十歳であろうと十六歳であろうと人の胸には、驚異に魅かれる心、おさな児のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。君にも吾にも見えざる駅逓が心にある。人から神から美・希望・喜悦・勇気・力の霊威を受ける限り君は若い。

霊感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ、悲嘆の氷にとざされるとき、二十歳であろうと人は老いる。頭を高く上げ希望の波をとらへる限り、八十歳であろうと人は青春にして已む。

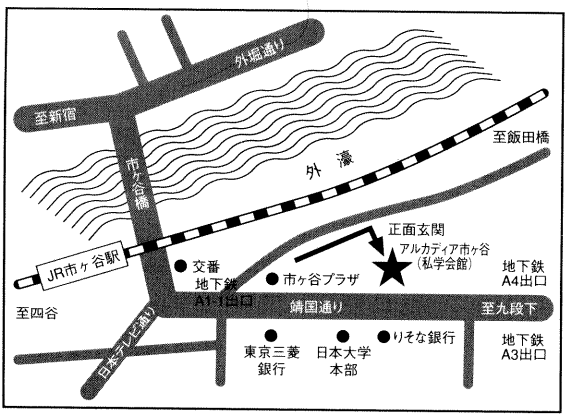
怯懦（きょうだ）…臆病で怠けること　芥（あくた）……汚れ小さくなる　駅逓（えきてい）…次から次へ送り届ける

サムエル・ウルマン略歴

1840年	4月ドイツ・シュトゥットガルトに生まれる。
1851年	両親と共にアメリカへ移住
1860年	リンカーン大統領就任、南北戦争起こる。 南軍のミシシッピ第十六歩兵連隊入隊
1884年	金物屋を開業 市の教育委員とエマヌエル寺院の牧師となる
1924年	84歳で死す

この詩は、一七会より
幹事学年に贈呈いただきました

会場案内



■交通のご案内　地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅A1-1出口
地下鉄新宿線 市ヶ谷駅A1-1　A4出口
JR中央線（緩行）市ヶ谷駅＊各出口から徒歩約２分
※駐車台数に限りがございますので、なるべく電車等の公共交通機関をご利用下さい。

■所　在　地　〒102-0073　東京都千代田区九段北4-2-25
TEL：03-3261-9921　FAX：03-3261-9931

講　師　紹　介

宝井　琴調(たからい きんちょう)**師匠**

本　　名　古内　遼二
生年月日　1955年5月28日
芸　　歴
1974年　五代目 宝井馬琴に入門　芸名 宝井琴僚
1985年　真打昇進 琴童と改名
1987年　宝井琴調 襲名
芸　　風　オーソドックスな読み口で武芸ものを得意とする。新作講談にも意欲あり
演　　目　「寛政力士伝」「大岡裁き」「赤穂義士伝」「幡随院長兵翁」ほか多数
恒例行事　毎年夏には、宝井琴梅と共に自転(動)車に乗り、北海道各地に赴き、出前講談を行う

総会 懇親会 会費

一　　般	10,000円
シニア会員 (昭和37年卒以前)	8,000円
現役学生	5,000円
同　伴　者	5,000円

※大学一年生は、先着20名まで無料です。

第40回総明会総会・懇親会の御案内

日　時　2004年11月20日（土曜日）
場　所　アルカディア市ヶ谷（旧 私学会館）
総　会　午後５時より　　４階 鳳凰の間
講　演　午後５時30分より　　同　上
懇親会　午後７時より　　３階 富士の間

今回の懇親会のテーマは、

『質　実　剛　健』

―――― 原　点　回　帰 ――――

明治高校中学の調布移転・男女共学化という転換期を迎えている状況の下、明治の体質であった「蛮カラ」が風化していくことは必至です。だからこそ、我々は、今一度、「蛮カラ」に対して問いかけたいと考えました。男らしさ、汗臭さ、蛮カラ、硬派、このようなキーワードを中心に、会報や総会を進めていきます。
銘打って『**男子校根性物語**』いよいよ出発進行です。

懇親会　次第

会　長あいさつ
来　賓あいさつ
馬簾太鼓　演奏・紹介
ビッグバンドによるジャズ演奏
次期幹事学年へのハッピ引渡し
応援団による校歌・応援歌紹介

総明会の総会によせて

総明会会長
佐久間洋一

11年間に亘って総明会を牽引されてこられた向殿政男会長から、そろそろ若手に任すべきとして昨年秋の総会にてバトンタッチされ、総明会の伝統を守りこれを発展させて次に引き継ぐという重責を担うことになりました。

会員の皆さんの負託に応えるには会長として何をすべきかを考えると、総明会をどうあらしめるかという本題につき当たります。

そこで、会長就任に当たり、まず次のような私なりの目標を掲げ、皆さんのご助力を仰ぎたいと思います。

総明会が、いわゆるノスタルジーに浸るために群れる場ではなく、今を生きる皆さんが「個を強く」して仕事、趣味などの多方面に活動を拡げ、あらゆる垣根を越えて縦横無尽に世界中の人と出会う端緒を開く場にしたいと考えています。

壮大に過ぎる目論見と取られるかも知れませんが、一万数千名にも上る卒業生とその関係者がネットワークを駆使し、相互に情報交換できるようになれば、夢物語に終ることはないと信じます。

この目的実現には、皆さんに総明会および同期会のホームページ等を活用していただき、かつ総明会活動に参加していただくことが必要不可欠です。

そこで、ホームページを充実し、会則を見直し、活動の広範囲化を図り、より魅力ある総明会になるよう努力します。

ご期待ください！

総明会の総会によせて

明治高等・中学校校長
吉田　善明

第40回総明会総会の開催をお喜び申しあげます。本校が益々隆盛を極めているのも総明会の皆さんのご支援の賜と感謝いたしております。

私は、計らずもこの4月に法科大学院教授を兼務しながら校長としての大任を果たすことになりました。付属校教育の使命とその責任の重大さを感じ、日々努力を重ねております。

私は、新学年を迎えるに際し、伝統を有する付属校の校訓である『質実剛健』『独立自治』のもと、知性、体力、感性のバランスのとれた基礎教育の充実を目ざし、21世紀のグローバル化時代に対応する生徒の養成に全力をそそいでいくことを教職員をはじめ多くの皆さんの前で誓いました。そして、この基礎教育を充実し、実現するためのキィワードとして「創造」（物事をよく考え、創り出す）、「挑戦」（好奇心を持って何事にも積極的に挑む）「前進」（大きな志をもって前へ進む）を掲げ生徒に「勇気と元気」を与える努力をしてまいる所存です。

総明会の皆さんも、ここに掲げた教育の方針を伝統ある母校の後輩に向けた教育として理解され、さらなる御支援、御協力を戴きたく思っています。大学と同様に、高校・中学の評価は、卒業生の社会的活躍によって定まるといわれていますが、その社会的活躍こそ、後に続く同窓生の夢と大志を抱かせることになると思います。それはまた、総明会それ自体の活性化と充実に連なることでしょう。

本年度の総会の盛会をお祈りします。

校長先生 プロフィール

昭和11年北海道生れ、明治大学法学部卒業、法学博士。法学部教授（専門・憲法、比較憲法）、常勤理事、法科大学院教授（本年4月より）を務め、学外では、司法試験考査委員会議長、日本財政法学会理事長を歴任。妻、二人の息子の父。趣味は、紋章・家紋の研究（テレビ出演あり）、山の散策。

2003年度活動報告

専務理事　関谷　芳久

本年度より、佐久間新会長のもと、理事会の決議により、新しく、専務理事になりました、昭和44年卒　男坂倶楽部の関谷です。どうぞよろしく皆様のご協力ご指導お願い申し上げます。

我が総明会も歴史を重ね、佐久間新会長のもと、本年度は総会も40回目を迎える事になりました。この間、OBの連帯を育て、母校との協力関係、賛助活動を維持、推進することを目的として、各委員会が活発に活動してまいりました。今後ますます総明会活動に参加いただき、すばらしい同窓会を皆様の力で創り上げていきたいと思っております。

さて、昨年、浅草ビューホテルで開催されました第39回総会以降、本年10月までの活動報告を申し上げます。

1　総会

第39回を迎え、昭和51年卒同期会「明々会」の担当で「元気な明治」をテーマに、浅草のビューホテルにおいて、400名近い会員の出席をいただき、大盛況の内に、開催されました。総会において、佐久間新会長、尾島副会長、服部新副会長が、総会の決議をもって選任されました。長い間、向殿前会長、山崎前副会長のご苦労に感謝申し上げます。講演会では、明大OBのプロラグビー吉田義人氏をお迎えし、「元気な明治」の真髄をついた話をされ、好評裡のうちに終了し、懇親会では、浅草サンバフェスティバル準優勝チーム「バルバロス」を招き、楽しいひとときをすごしました。

2　評議会

各学年で構成する評議委員会は、今年度は、3回開催いたしました。6月には、懇親パーティーをリバティータワーにおいて開きました。

3　理事会

執行部と各委員会により、4回開催され、よりよい総明会のため、活動いたしました。

4　組織検討委員会

北島常務理事を委員長に、上は昭和17年卒の安藤氏から昭和53年度卒の竹越委員までの9名において、会則の選考方法、基金の運用等の総明会の基本となる諸問題を活発な意見交換の中、よりよい総明会を目指し、検討しております。

5　学校行事参加

卒業式、入学式、体育祭、文化祭、総明会学校説明会を行いました。

6　イベント

①第10回総明会チャリティーゴルフ大会を、5月5日（水）、潮来カントリーにおいて、90名の参加のもと、盛大に開催し、昭和43年卒の紫讃会の団体優勝で幕を閉じました。
②武陵会（明大中野高校同窓会）との親睦、懇親会の交流。
③白駿会（明高父母の会OB会）の総会出席及び親睦会
④若手の会の開催として、総明会の理解と親睦を図る。
⑤大学4年生同期会の結成指導等を行う。
⑥明朗会（旧シニア会）による落語鑑賞会を行いました。

7　新事務局紹介

本年4月より、昭和50年卒明紫会　山崎氏が新たに新事務局長に選任されました。今後、総明会にご連絡、問い合わせ等がありましたら、下記へ、ご連絡ください。

TEL・FAX　0476-46-8115
e-mail yama@hide.nifty.jp

●●● 総明会 2003 年度 会計報告 ●●●

(自) 2003 年 4 月 1 日～ (至) 2004 年 3 月 31 日　　単位：円

収入の部		支出の部	
学年会費	425,000	会議費 (12 回)	877,588
新入会員入会金	2,130,000	慶弔費 (学校関係)	340,480
新入会員永久会費	2,130,000	慶弔費 (OB 関係)	229,850
寄付金	15,000	慶弔費 (その他)	150,000
貯金利息	129	通信費	14,720
雑収入	937,933	事務費	59,935
		委員会活動費(財務委員会)	1,793,321
前年度繰越金	20,935,228	雑費	28,290
		次年度繰越金	23,079,106
合　計	26,573,290	合　計	26,573,290

上記のとおり報告いたします。　2004 年 3 月 31 日
会　長　佐久間　洋一　　会　計　中村　正容
監査の結果相違ありません。　2004 年 5 月 27 日
監　査　伊藤　茂雄　　阿部　正行

●●● 第 39 回 総明会 総会会報特別会計報告 ●●●

2003 年 11 月 15 日　　単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,605,000	総会関係費	
総会より助成金		1）会場費等	3,780,126
1）会報印刷補助	500,000	2）イベント(サンバ・餅子大義・宣伝)	500,000
2）総会講演会補助	100,000	3）謝礼(応援団・ブラスバンド・講演者)	200,000
寄付・広告	4,577,774	4）手土産代	278,750
『M』発行費用	244,010	5）雑費	152,274
		会報関係費	3,085,017
		運営関係費(会議費・通信費・雑費)	847,303
		総明会会計へ返金	183,314
合　計	9,026,784	合　計	9,026,784

●●● 第 40 回 総明会 総会会報特別会計予算(案) ●●●

2004 年 11 月 20 日　　単位：円

収入の部		支出の部	
総会会費収入	3,000,000	総会関係費	
総会より助成金		1）会場費等	3,200,000
1）会報印刷補助	900,000	2）運営費	800,000
2）総会講演会補助	100,000	会報関係費	
寄付・広告	2,600,000	1）制作・送付準備	1,500,000
		2）会報郵送費	900,000
		予備費	200,000
合　計	6,600,000	合　計	6,600,000

●●● 総明会 2004 年度 予算(案) ●●●

(自) 2004 年 4 月 1 日～ (至) 2005 年 3 月 31 日　　単位：円

収入の部		支出の部	
学年会費	450,000	会議費	900,000
新入会員入会金	2,300,000	慶弔費	700,000
新入会員永久会費	2,300,000	通信費	20,000
寄付金	15,000	事務費	60,000
雑収入	855,894	委員会活動費(財務委員会)	2,345,000
		雑費	20,000
前年度繰越金	23,079,106	次年度繰越金	24,955,000
合　計	29,000,000	合　計	29,000,000

総明会評議員名簿

（敬称略：総明会HPより転載）

年卒	名称	氏名	氏名
昭和 8年	昭八会	市川康夫	宗像健一郎
昭和10年		森田仁七郎	野元己喜男
昭和11年		板垣忠吉	
昭和12年	明中21会	中光国男	
昭和13年	二二会	舘春男司	
昭和15年	明中26会	奥野博	三笠光人
昭和17年	明中17会	伊奈葉秀雄	安藤賢司
昭和18年		落合博英	
昭和19年	明中二八会	鈴木昌	土居養二
昭和20年		渡辺昭雄	
昭和21年	午巳の会	小林田敏夫二	斉藤久也
昭和22年	午巳の会	菅田新玉城二	
昭和24年	明高1期会	大西武二夫	
昭和25年	明二会	小田川村幹一	高橋信雄
昭和26年	猿楽会	寺渡邊偉郎	熊井実右
昭和27年	明高会	戸矢田島行	米山耕
昭和28年	明窓会	石佐藤彰之一	
昭和29年	29会	小鈴木健郎	山本峰司
昭和30年		加倉林正三	宇田川雄弘
昭和31年	明楽会	佐藤林寿郎	大山出育男
昭和32年	明治会	小鈴木佳雄	山崎敬生
昭和33年	三三会	加倉藤貞一	藤島義茂
昭和34年	旧雨会	倉林眞夫	磯時男繁
昭和35年	珊瑚会	加藤誠義	野田正之士
昭和36年	明駿会	戸藤谷樹	谷村哲侑
昭和37年	37会	三浦昭生	中橋正
昭和38年	二年に一会	佐藤仁	高橋
昭和39年	三九会	阿部正行	
昭和40年	明優会	小川秀次	米山廣昭
昭和41年	41明友会	結城康郎	菊本哲也
昭和42年	M41会	志村夫	新村秀男
昭和43年	紫讃会	寺田康一	小島保男
昭和44年	男坂倶楽部会	山形明茂	中河孝樹
昭和45年	獅子の会	木村英士	吉田耕太郎
昭和46年	明潮会	廣野宏	金田敏一
昭和47年	四七四七同志酔会	海老根一	内倉前茂
昭和48年	波の会	粟野哲介	名前実豊
昭和49年	翼明会	三森也勲	大藤敏彦
昭和50年	明紫会	小林吾	近藤稲一朗
昭和51年	明々会	大西洋	前田和久
昭和52年	ブリリアントクラブ会	井上静士郎	増田利之
昭和53年	柴友会	水口幸良	竹越正幸
昭和54年	明誠会	渡辺泰之	熊澤好孝
昭和55年		出間祐昭	大迫
昭和56年		見山俊幸	
昭和57年		二村義成	
昭和59年		森岡実郎	北川愛二郎
昭和61年		光木孝一	
昭和63年		鈴山弘之	米持貴史
平成 2年		山口一和	森藤正樹
平成 3年	明仁会	小畑郎	斎藤直宏
平成 4年		安藤啓	福田浩茂
平成 5年		河村利	長野吉克
平成 6年		石田一	新村哲哉
平成 7年		青木央	金子敦
平成 8年		小谷樹	三村具永
平成 9年		秋山大志	香川満洋
平成10年	紫98倶会	石田光億	平田健
平成11年	明哲会	玉木一仁	戸崎寛
平成12年		岡庭男	保科輔
平成13年		下朋威	大橋大頌
平成14年		大川康征	上原康仁
平成15年		杉田将介	武雄一郎
平成16年		平	徳竹正憲

第10回総明会チャリティゴルフ大会開催

今年で10回目を飾る〝総明会チャリティゴルフ大会〟が5月5日（水）潮来カントリークラブにて開催されました。当日は、朝からの風雨にも負けず、昭和34年卒業の大先輩を筆頭に90名の壮々たる総明会会員の方々が参加されました。また、白駿会や川口明高会の方々もご参加されました。

栄えある優勝を飾られたのは、昭和36年卒　村上氏、昭和43年卒　萩氏、昭和44年卒　田島氏の各氏です。（INコース、OUTコース、サウスコースの3コースでの勝負のため、優勝者が3名となりました）また、卒業学年優勝は、昭和43年卒紫讃会の方々のチームとなりました。

本来の目的でありますチャリティにつきましては、10万円が集まり、明治中学・高等学校へ寄付されます。

男坂倶楽部の皆様

プレイ後のパーティでは、卒業学年毎に集まって、当日のゴルフの反省会や近況の情報交換に花が咲いていました。来年は、同期会をかねて皆様ご参加されてはいかがでしょうか。

文責　会報委員　布施　義男

会長から副賞をもらう優勝者

明治大学
理事長
長吉　泉

明治大学　総長
明治大学長
納谷廣美

明治高等学校　校長
明治中学校　校長
吉田善明
（明治大学法科大学院教授）

総明会

会長　佐久間洋一
四十三年卒　紫讃会

副会長　尾島育四郎
四十一年卒　四一明友会

副会長　服部雄二
四十四年卒　男坂倶楽部

専務理事　関谷芳久
四十四年卒　男坂倶楽部

常務理事　北島一弘
四十五年卒　獅子の会

事務局長　山崎秀樹
五十年卒　明紫会

会計　中村正容
四十三年卒　紫讃会

昭和43年卒 紫讃会
総明会 会長

弁護士 **佐久間 洋一**

事務所　〒104−0061　東京都中央区銀座5丁目8番5号
ニューギンザビル10号館5階
電話03−5568−6646 ファックス03−5568−6648

昭和44年卒
総明会　副会長

服部雄二
男坂倶楽部

昭和41年卒
総明会　副会長

尾島育四郎
41明友会

昭和50年卒
総明会
事務局長

山崎秀樹
明紫会

メールアドレス
yama@hide.nifty.jp

昭和45年卒
総明会
常務理事

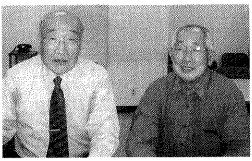
北島一弘
獅子の会

昭和44年卒
総明会
専務理事

関谷芳久
男坂倶楽部

特集 男子校根性物語

一七会　明治を熱く語る



戦時中当時の日本の若者は欧米に対して対抗心を持ち、向学心に燃えていたね。教育方針の変わる前、日本は世界に冠たるものだという時代だった。そんな風潮の時代の母校明治（旧制明治中学時代）は、「麻布・開成・明治」と並び称されていた時代だった。勉強もよくしたもので、東京大学・一ツ橋大学等ナンバースクールを志したり、陸軍士官学校、陸軍経理学校、海軍機関学校、或いは早稲田・慶応や国公立の専門学校などに進んでいった者が大変多く、明治大学に進学した者は少なかった。戦前は大学付属高校という感じではなかった。そのため明治大学に進学した生徒で悪い成績をとれば、明中出身者が学年の中心的リーダーに成れないようでは「恥を知れ！」と先輩達によく叱られ殴られた程、誇り高き学校であった。ただ昭和14年頃からは配属将校の軍国教育が強化されるようになったため、勤労動員に引っ張り出されることが増えて、勉強する時間が次第に少なくなっていった。

吾々にとって〝明治中学〟とは人生の基礎を教わり作ったところでした。あの頃は自分自身の人間の基礎を作る時だった。本当に幸せでしたね。

質実剛健という点でもまったく違う。体育会系ののりではなく、明治中学ほどリベラルな学校はなかった。鵜沢聡明先生の学校創立の理念はもっと高いものだった。華美軟弱を嫌い、正義感に篤く、強きを挫き弱きを助ける気持ちが旺盛でした。

年功序列は勿論重んじてましたが、たとえ上級生といえども下級生に対する理不尽なことは許されませんでしたね。これが当時の明治中学では、

昭和十七年卒
明中一七会
会長　卜部芳郎
事務局　伊奈葉秀雄
安藤　賢司
〒一一六―〇〇一三
荒川区西日暮里一―三五―七
TEL〇三―三八九一―三五三七
（伊奈葉）

至極普通のことでした。そういえばこんなこともありました。当時水泳部は、たまたま最上級生の5年生がおらず、私達3年生の同期の者が部を統括していたんですよ。そのことを知ってか、確か野球部だったと思いますが、水泳部の新入部員募集ポスターを掲示板から引き剥がして野球部のポスターを貼ったんですわ。これに対して学年全員が最上級生の5年生に対し猛烈な抗議をした事件がありました。だって理不尽でしょ、これは許せないわけです。当時体育と言えば剣道だったので、皆が持っている剣道の鍔を拳に挟み、卜部氏が「〇時決行」という号令をかけて一斉殴り込みの準備をした。中には訳も解らず参加した者も居たが（笑）。いざ決行の間際になって担任の山田先生（注1）が知るところとなり教室に来られCクラス全員に教室外に出ることの禁止令が出されたんです。

そこで先生に「吾々のクラスだけ止めても意味が無いですよ。ほらご覧の通り」と言って窓を開けて見せてAクラス・Bクラスが既にグランドで待機中で、「今進軍ラッパを吹けば突入しますよ」と言ったら、さすがに先生もうなり声を上げ「良く解ったから兎に角待て！」となり、2学年上の原因となった野球部の生徒を教員室に呼び出して、水泳部の部員と主だった生徒に謝らせて一件落着した。これは山田先生が体を張って制止してくれたお陰で、5年生の方が謝って事なきを得たんです。

それと物の無い時代ではあったけど、兎に角おしゃれだったと思います。暁星中学の制服がおしゃれだと、その高級な生地をわざわざ取り寄せて制服を作った者もいたしね。でもあまり女性とのデートはしなかった。女性はあまり意識しなかった。近所の文化学院の学生が団体で男坂を通るときには、その余りにも華美

エーゼット株式会社

服部　洋一（昭和41年卒）
服部　雄二（昭和44年卒）
大導寺和幸（昭和44年卒）

〒101-0025
千代田区神田佐久間町4-22
TEL 03-3865-9577 FAX 03-3865-1162

昭和36年卒
総明会
名誉会長
向殿政男

〒158-0081
世田谷区深沢5-18-20
TEL03-3701-1691

な姿に腹をたてて、悪戯のつもりで砂などを投げつけて先生に注意されたことも思い出としてあります。

そんな吾々の頃に存在したのが〝風紀委員会〟だった。できたのは吾々が3年生の時だったかな?。代々5年生が委員を担当するんですけどね。中でも特に剣道部が勢力をほこっていました。

例えば、明中生が軟弱な格好をしているだけで「ちょっと待て!」と呼び止めて注意した。

校門のところで待っていて服装を点検、帽子に油を塗っている奴にも注意した。あくまでも自治委員的な人々だったので、みんな率先垂範して風紀委員会に入ってきたものだよ。学年で5名位いたかな。つまり、T商業・K高校・S学園などのおかしな学校やその連中とは違うんだ、それと一緒になってはいかんのだという気概があったんだね。そういう気概を持っていた人たちが風紀委員会を形成していたけど、あくまでも『卜部氏＝風紀係』だったね。すべてを取り仕切っていたのが卜部氏で、その伝統が後の教育宣伝班に生かされたと思います。

そんな時代でしたから倫理感は大変旺盛でした。こういった気風、気概、生き方を総称して〝蛮カラ〟というんだと思っていますよ。辞書をひくと、蛮カラとは粗野な振る舞いとか言動とか、粗末な服装とか、風采の上がらないことなんて出てるが、そうでは無いと思います。明治流の蛮カラとは、正義・勇気・倫理等の「男の美学」だと思いますョ。

今思えば、「帝都の真中」もいい曲だが、子供向けの校歌だな。武田孟さんが校歌をつくる時に児玉花外先生、山田耕筰先生に働きかけて作ってもらった「白雲なびく」校歌が蛮カラの一番の象徴だと思います。

追記

このほかにも、戦後間もな

祝　第40回　総明会総会

明治大学付属明治高等学校應援團OB会

会長　小田川　玉城（昭和25年卒）

く小学館が翼賛出版の汚名を濯ぐため、進歩的総合雑誌の出版が企画されたがその編集長に吾々明治中学の大先輩の作家荒木　巍先生が就任され、その創刊に編集部員として尽力され、作家の林芙美子先生や菊池　寛先生の家を訪ね原稿を頂く傍ら、その若い故の好奇心と深い知識が気に入られ、色々なお付き合いをされ、ついに「新人」という雑誌を発行なさったという超ビッグスケールのお話も伺えました。

また、GHQのマッカーサーが愛していたサムエル・ウルマン（1840独生）の詩「青春の詩」を卜部氏から幹事学年に贈るとして頂戴しました。

などなど私達の高校生時代とはまったくレベルが違うお話ばかり。圧倒されるやら、余りにも興味を惹きつけるお話に聞き入ってしまったり、またしばしば大爆笑の渦に巻き込まれるなど、正にお話は尽きませんでした。

今回、総明会の副会長　服部雄二氏（昭和44年卒）・常務理事　北島一弘氏（昭和45年卒）のお引き合わせで、このようなお話を伺える貴重な機会に恵まれたことに深く感謝すると共に、明治という母校の良き伝統と、正義と人の生きる倫を現す〝蛮カラ〟をいつまでも人生の後輩たちに語りついで行くことの肝要さを肝に命じました。ありがとうございました。

※一七会は大正14年生まれで旧制、明治中学を昭和17年に卒業され、現在32名。年に一回、初冬に総会を開いていらっしゃいます。今回は一七会会長の卜部芳郎氏、安藤賢司氏のお二人の大先輩にお話を伺いました。

（注1）担任の山田先生は、現副校長・高等学校教頭の山田伸夫先生の父君です。

文責　会報委員　小嶋　真作
　　石黒　理樹
　　野口　進

総明会 顧問（昭和32年卒・明治会）

山崎敬生

〒299-0102　市原市青柳2－1－23
市原企業株式会社　代表取締役

「新人」感想文

昭和52年卒　小嶋　真作

昭和17年卒一七会の卜部氏から門外不出の秘蔵雑誌「新人」（注1）を幹事学年に貸していただいたので拝読させて頂きました。

「新人」感想

掲載されている記事のなかでも詩集「たらちねの母をうしなふ　三章　菱山修三」を読んで悲しみと絶望感のあまりの深さに暫く涙が止まりませんでした…。

春　寒

私の母は優しいあなたに感謝をしてゐた。その感謝のしるしを、あなたにおくりたいと云つてゐた。注意深く、私の顔を見た。私は母の眼を見返した…。

深い悲しみが碑のように、永久に、私の胸に記された。一言、大切なことを、私は母に云はなかった。冬は長かった。だんだん母は衰えた。春を待ちかねて、母はたうとう死んだ…。

悲しみに負けるなと、あなたは手紙に書いて来た。會ふと、あなたの眼は私を問ひ詰めた。春は寒かつた、殊に、私には寒かつた。

歸　宅

また戻って来た、眞つ暗な小屋の、眞つ暗な部屋へ。

ああ、ここよりほかに私の帰る處はない。なにげなくあたたかに、私を迎えてくれたひとは、ゐない、もうゐない。

私はひととき、暮れがたからの、大層なひもじさを度忘れする。手探りで、私はあかりをつける。

―なんの別状があるものか。

覆ひのかかった、手頼りない燈火が、ただありありと私の所在を照し出す。いつだったろう？「―ひとりで殘されたら、お前はどうなるのだろう？」と云つた、その人の氣持ちが不意に解る。この、ひろい、ふかい、大きな生のなかで、いま私のゐる火と一隅は、もしかしたら、暗過ぎる。

楚　囚

私ひとりの小屋のなかを、私ひとりが歩きまはる、檻のなかの熊のように。私は絶望してゐるが、それを正面から見る氣はしない。

私は肝の底から淋しいが、当然なことは云う氣がしない。私の精神の衛生學、その第一課は、飽食飽民だ。が、どうしたらよからう？私のシャツ、私の着物、私の夜具、どれもこれも綻びだらけだ。云うも辛い。汚れものは、押入れのなかにいつぱいだ。ああ、それら、腐った薔薇の花よりも

始末がわるい。誰が見るだらう？　私はこの自由の不自由を、心細さうな顔をして眺めてゐる。

こんなにも過酷な状況下だったとは恵まれた時代に生まれた私にはとても想像がつきませんでした。

また清水幾太郎著「國民性の改造」等を読んで。

戦前正しかった考え方が敗戦後悪となり、今まで心の拠り所とした精神の支柱を失い、将来展望が全く見えない思想の混沌期に、僅か5ヶ月で日本の将来に希望を与え羅針盤となるような雑誌「新人」が存在したことはとても驚嘆します。

編集後記の編集部5名の内、ト部芳郎氏・富永繁夫氏・荒木　巍氏（本名　下村）の3名が我が明治中学校出身者であることに誇りを感じました。

働けど働けど満たされることの無い心身の飢餓と偏重した国粋主義による束縛思想の日本から、いかに脱皮して平和で豊かな国にするかを国民の大半が腹の底から渇望し、知恵を絞り汗をかいて日本の復興という偉業が成されたものと確信しました。

今の時代、経済が豊かになり飽食の時代を迎え、些細なことで絶望して自殺する若者がいることは、とても戦中戦後を必死に生きてきた時代の人には理解できないことだと痛感した次第です。

贈られた「青春の詩」は、日本を復興された先輩方の心意気を詠ったものと受け止めました。これは自分達だけでなく多くの方々にも戦中戦後の先輩方の心意気を少しでも受け継いで欲しいので今回の会報に掲載させていただきます。

（注1）

昭和二十一年二月一日発刊
「新人」第一巻　第一號
小学館発行　　定價三圓也
より転写

※刊行してから57年経過していて風化寸前でしたので、原本をコピーの上拝読させて頂きました。原本コピーは会報委員会にて大切に保管させていただいております。

都会派・明治高が輝いていた頃
軽量投手が変幻自在な投球で甲子園を席巻

この記事は、今年1月13日発行「ホームラン」（日本スポーツ新聞社刊）に掲載されたものです。

あのひとは…

今、デスクにはやや黄色を帯びた新聞がある。

昭和28年7月前後―半世紀前の古いものだ。その一つを拾ってみると「明治高の優勝有力―これに迫る日大三、早実」（報知新聞―7月13日付け）とある。全国高校野球地方予選展望の東京の戦力分析を伝えている。

「日大三、早実の校名はいまも新聞で見られます。しかし、明高の名前がスポーツ紙などで見かけることはほとんどなくなってしまいましたねぇ」と、浮貝文夫さん（68歳）は寂しげにいって、黄ばんだスクラップに目を落とした。甲子園には春夏合わせて7回出場。しかし、昭和40年春を最後に「甲子園」は途絶えた。「明治は遠くなりにけり…」である。

その明高が全盛を誇っていたのは、昭和20年後半から30年代の一時期である。まだ硝煙の匂いが仄かに漂う。昭和25年春夏ともに初出場（監督はあの島岡吉郎御大）であった。

その3年後の昭和28年夏、左腕・浮貝文夫、右腕・高松理の両投手を擁した明高は、東京随一といわれた戦力で全国大会予選に挑んだ。強かった。エース浮貝のインドロ（当時、インコースに大きく割れて落ちるカーブをこう表現した。）と外角へのシンカーは俊逸だった。

この夏168センチの小兵・浮貝投手は好調さを維持していた。春の第10回関東大会で名将稲川東一郎監督率いる桐生高校に決勝で5―4の僅差で惜敗したが、準優勝に輝いている。続く東日本大会（当時）でも静岡・清水東高を破り優勝。更に関西に遠征。伏見、平安という強豪を連破。どれも高松―浮貝の継投での勝利だった。

「何しろ平安といえば全国にその名は轟いていた。この強豪を破ったという自信が後の甲子園に繋がったのだと思います。」と浮貝さんはいった。

夏の都予選。今のように東西に分かれておらず、参加120校によって、代表権は争われた。明高は破竹の快進撃で決勝に進出。相手は荏原。高松―浮貝の継投策が功を奏して勝ち上がった。明高は決勝で浮貝が先発。延長12回を0に抑えサヨナラ勝ち。甲子園出場を決めた。浮貝さんは12回を散発4安打に抑え完封

したのだった。

「華奢な体だったが、いつも男坂を走っていたので、スタミナはありました。」

当時、明高は、杉並区の代田橋にあった明大球場を借りての練習。しかし、大学がシーズンに入ると使用もままならず、男坂の石段が格好の練習場であり、男坂の昇降トレーニングで足腰を鍛えた。

初めて目にした甲子園

甲子園に向かう東京駅は賑やかだった。

「子供の頃から甲子園は憧れでした。どんな球場なのか、そして、マウンドは、と想像しました。何しろラジオだけで、テレビが放映されたのはこの大会からです。」

そんな浮貝さんが勇躍、甲子園のマウンドに立ったのは大会2日目の第3試合。相手高は東九州代表の甲南（鹿児島）だった。

予選で3割を打っている「桜島打線」をどう封じるか。

「私の武器はアウトコースへのシンカー、インドロ、そして、右打者の内角膝元に微妙にシュート回転する直球。しかし、当日は下痢気味で持つかどうか心配でした」

浮貝さんは体調がいま一つだった。だが、マウンドに立ったとき、そんなことはすっかり忘れていた。完璧なピッチングで三振の山を築いていった。強力な桜島打線を12奪三振、4安打に封じたのだ。記念すべき甲子園の初勝利は5—0だった。

その後も順調に勝ち上がり、準決勝。この試合に勝てば、東京勢としては、大正14年夏の早実以来絶えてなかった決勝戦進出である。相手は、豪腕・空谷投手（中日—近鉄）を擁す四国の松山商である。

「もの凄く速かったですね。とても打てる気はしなかった」と浮貝さん。結局は2—0で敗れ、念願の決勝進出は成らなかった。

あれから半世紀。現在の明高は、かつての面影はない。学校方針で学業が優先され、野球部の影は薄く、東京都の予選では、一、二回戦で姿を消す常連校になってしまった。

去年の秋、OBの音頭で「明治高校を甲子園に送る会」が開かれた。この席で、浮貝さんはこう檄を飛ばした。

「明高野球部は甲子園に7度も出場した名門校である。先輩たちが築いた栄光を取り戻してほしい。そしてグラウンドとアルプス席で共に校歌を歌おうではないか」と。

古豪・明治の復活はいつの日か。

〝幻の應援團〟甲子園エピソード

昭和34年卒　秋山　義昭

1958年、明治高校野球部が春・夏と甲子園大会に連続出場した。甲子園に二度連続応援に参加したために、34年卒の應援團は後輩より、「幻の應援團」と呼ばれている。

この甲子園での熱戦にはいろいろな思い出があるのだが、ここは「今だから語れる」隠れたエピソードを紹介しよう。

この年の顧問先生は「チーター」だったのである。その松枝正弘先生が嫁さんをもらうことになった。驚くべきことに「結婚」である。春の甲子園出場校については、秋の東京地区予選で決まるのであるが、王投手（編者注1）率いる早実に決勝で敗れている。当然出場できないのであるが、後援の新聞社の関係で春になって二校出場できることが急遽決まったのである。かわいそうに、そんな事があることとは知らないチーター。結婚式は甲子園出発の前日に決まっていたのである。怒り狂っても後の祭り。もちろん、一番楽しみな新婚旅行などは行かれない。結婚初夜を無事にすませて明くる日、我々悪ガキと電車で甲子園にと最悪である。ところが電車の中では一人で思い出に耽り、「微笑」を浮かべている。團員はこんな優しいチーターに恐怖を感じた。そんなチーターを祝福するかのように明高は連戦連勝、そして悪いことに甲子園大会始まって以来の雨で流れる試合の多い春の大会であった。センセイは連夜のラブコール、そんなに勝つはずもないので應援團の宿舎は大阪の電力寮から始まって三回も変わる。いやな予感、早く新妻のもとに帰りたいチーター。怒り狂うチーター。ついに準決勝。先生は耐えた。ここまで来たら勝ちたい。勝てば決勝が待っている！大声での応援、だが勝負の世界は厳しく意外な結果へと導かれた。延長戦で中京商業（編者注2）に1対2で敗れたのである。（編者注3）でも、その時のなんとも言えない先生の複雑な笑顔は今でも忘れられない。

関西弁で恐ろしかったことがある。当時の甲子園大会で、忘れてはならないのが、前年秋の大阪地区大会の優勝校の「N商業高校」（通称「N商」）である。野球は強いがガラの悪いと評判の高校であった。当然甲子園に出場できたのであるが、校内暴力事件で春の大会は出場停止処分を受けていた。

なにしろ春の大会は準決勝までいった関係で試合の日程は飛び飛びで、應援團は試合

の無い日に自由行動の日がある。團員全員で観光見物に行き、帰りの宿舎である大阪ミナミにある「清風荘」に向かう裏道でそれは起こった。向こうから来た「花の應援團」風の長いガクランと学帽をかぶり、何と高下駄を履いた高校生二人が我々を呼び止めたのである。校章を見ると「N商」である。我々の校章と應援團のバッチを見て、「何や明高の應援團か、わてらN商の応援団や、挨拶せんかい！」ここはエールの交換を交わしているどころではない。明らかにケンカを売ってきたのである。相手は二人、こちらはOBを含め十人近くはいたと思う。我々全員の頭によぎったのは、ここで売られた喧嘩を買えば、せっかく勝ち続けている野球部が出場停止処分を受けるということは間違いない。一時は睨み合ったが、ここは「我慢」。全員一言も発しないで宿舎に向かって歩きだした。後から「明高の應援團は喧嘩もできへんのか！」の罵声を浴びながら、我々は無言でその場を去った。関西特有のど根性と、ど迫力を経験したのである。

まだまだ面白い話、ヤバイ話など色々ありますが…。あれから40年。もう時効が成立しておりましょうが、この辺で沈黙いたします。我々の学年に同窓会で会いましたら一人ひとりに聞いてみて下さい。

（1999年9月発行應援團五十周年記念誌より転載）（一部省略）

（編者注1）

現在の福岡ダイエー監督、元巨人の不動の4番打者、王貞治氏のこと。ちなみに、この年の夏は東京都予選決勝で早実と対戦。1対1で延長戦となり、延長12回表に早実に4点を取られるものの、その裏、1死一塁から平凡なセカンドゴロが併殺をあせったためにエラーとなり、これをきっかけに5点を取り返して6対5と逆転サヨナラ勝ちをおさめ、春夏連続出場を果たす。いまだに語り伝えられる伝説の名勝負であり、王貞治氏の打者転向のきっかけのひとつになったと言われる試合である。

（編者注2）

現在の中京大中京高のこと。春4回・夏6回優勝の名門校。

（編者注3）

1958年春の甲子園での戦績は左記のとおり。

1回戦はシードされ2回戦から出場。

2回戦　明治5—1坂出商
準々決勝　明治2—0立命館
準決勝　明治1—2中京商
（延長12回）

水泳部の思い出

昭和36年卒　石川　守也

水泳部のOB会は昭和1982年、寺村氏を会長に上野の池之端センターで、第1回の総会を開催しました。

現在は村嶋氏が会長に、副会長は私と高沢氏が務めています。

私の現役当時の水泳部の部長は谷口先生でした。

先生には水泳部員の成績に気を配っていただき、水泳だけでなく勉強もしっかりやれと励まされました。私はプールも無く、中学に入学の時には水泳部が有るのが分からず、中3の時に入部しました。

練習は明大の地下プールを使ってやりました。練習時は競泳パンツが使えず、赤ふんどしでした。競泳パンツはレギュラーにならないと穿くことが出来ませんでした。当時は競泳パンツも高価で贅沢で買えませんでした。

また、プールは5月から練習を始めますが、水温が低く大変寒く、水も濁った状態での中での練習でした。しかし、誰も風邪も引かず、結膜炎にもならず、元気に泳いでいました。

但し、地下プールも唯一つ良いことがありました。当時まだ温水プールが少ないときに、冬季は温水になり、水温は低かったが練習が出来ました。しかし、プールは水コケが生えて、ゲンゴローが泳いでいる中での練習でした。

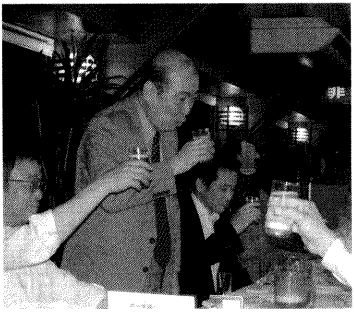
楽しい思い出は、夏休みの館山合宿でした。憧れの太陽を浴びての練習でした。

館山市民プールは他の女子高なども合宿していたので、刺激になって頑張りました。

宿は漁港の旅館で、周りにそれと解かる女性がたむろしていて、1年生の部員の股間を握られたりしました。

今では信じられないような、振返れば楽しい部活でした。

明水会 総会風景



図書班那古物語

昭和52年卒　大西靜士郎

1960年代後半から1980年代前半の図書班の春・夏の合宿は、主に、千葉県館山市にあった明大の施設である那古寮で行なわれていました。昭和45年卒の平田幸彦氏の話によると、那古寮での合宿が始まったのは、1966年でした。

那古寮が、私達図書班OBの心に大きな比重を占めるようになったのは、私達が「那古のおばちゃん」と呼ぶ櫻井利子さんをはじめとする寮の皆さんの温かいもてなしにあったと思います。

おばちゃんの思い出は、OBそれぞれにありますが、私の場合は食事です。図書班だけでなく、当時の明高・中の不文律として、食事に出されたものは残さず食べる、というものがあり、おひつに米一粒も残すな、と言われていました。合宿初日の食事はまだ楽なものです。ところが、残さずに平らげた私たちの食べ方を見て、おばちゃんは、食べ盛りの学生には足りなかったのだと思い、次の食事には、さらに多くのご飯を炊いてくれるのです。残さずに食べる私達。まだ足りなかったのかと思い、さらにご飯を炊くおばちゃん。最後には、おひつを抱えて泣いた下級生もいました。おかげで大喰らいになったと言う人もたくさんいます。当時は大変でしたが、今はOB間での良い思い出です。

その那古寮も、1996年3月に閉寮になりました。その時、OBのまとめ役的存在の平田氏が声をかけ、図書班の息子達が、那古のおばちゃんに感謝する会を開きました。おばちゃんがとても喜んでくれたことが印象に残っています。その後、このような会を開いていないので、またおばちゃんをお呼びしてOB会をやろう、という話をしています。

明大那古寮のお母さん
櫻井利子さん
ありがとう!!

閉寮までの30年間、無事故で寮を管理してくださったことに、心から感謝申し上げます。深い愛情と優しさだけでなく、ときにはきびしい目で私達を見守ってくださった日々を、あのおいしい食事とともに、私達は忘れていません。

図書班OB会一同

連絡先　平田　幸彦
〇三―三五八九―〇六八七
同　大西靜士郎
〇九〇―二五三三―〇一八九

バレー部の輝かしき時代

昭和52年卒　樋田　哲次

バレー部の顧問の先生は、現在、山中先生です。山中先生が着任する前は、故松枝正弘先生が、40年近く顧問でありました。

終戦後、1948年に、松枝先生は、東京教育大学（現筑波大学）在学中から、講師として、明治高校で教鞭をとり、大学卒業後も、そのまま明治高校に着任されました。

当時、明高のまわりは焼け野原で、駿河台から靖国神社の鳥居が見えたそうです。

生徒とは名ばかりで、予科練くずれや、復員兵、闇市で暮らしてきた者もいたそうです。戦争中、勉強したくてもできなかった者たちが、もう一度勉強をしたくて学校に入ってきたそうです。ですから、年齢も20代後半の生徒も多かったようです。生死の境を超えてきた生徒たちは、度胸が座っているというか、けんかっぱやいというか、今のひ弱？な生徒とは、全然ちがうようです。松枝先生はそんな生徒を見て、これは教師として、しっかり彼らと正面からぶつかって教育しなければならないと思い、文字通り体当たりで生徒と接してきました。

そして、自身が大学時代に箱根駅伝を走り、人間形成に役だったことを思い、彼らにもスポーツを通じて教育を施したいと考えました。今の明高の4号館が建つ前の敷地には、小さな建物があり、その東側の空地にバレーコートを作りました。元は焼け野原ですから、ちょっと掘ればいろんな建材・ガラクタ・石がでてきます。それを先生と部員が丹精こめて整地しました。後輩はそれを見ていますから、先生・先輩が作ってくれたコートに対して出入りするときは、お辞儀をしたそうです。

このような創成期を経て、創部5年後の1954年にインターハイ東京都予選決勝まで勝ち進みました。相手は、立教高校です。後にバレー部歴代主将の中で、一番の名主将といわれた伊藤主将を筆頭に、よくチームがまとまっていました。この試合も第1セットを取り、「よし、全国大会だ」と思っていた第2セットに、伊藤主将が足を捻挫し、試合に出られなくなりました。これを境に、一気に勝機を逸し負けてしまいました。

さて、2年後の1956年にまた明高バレー部は、インターハイ東京都予選決勝に進出しました。相手は中央大学付属高校（現中大杉並高校）です。この時の当間主将は、バレー部歴代一のエースと言

われ、当時のバレーボールをスパイクを打ったと同時にパンクさせるほどの豪腕で、後に東京オリンピックへ出場する全日本候補選手まで登りつめた選手でした。

しかし、試合は終始中大ペースにて進み、またしても全国大会には行けないのか？2年前の主将でコーチとしてベンチに入っていた伊藤氏が、その不甲斐なさから席を立ってしまいました。それを見ていた選手達は、あの2年前の悪夢を振り払うがごとく急にエンジンがかかり、見事逆転優勝することができました。優勝旗を当間主将が手にした時、そこへどこからともなく、伊藤氏が戻り、松枝先生と涙と笑顔の握手をしたそうです。

全国大会は、愛媛県での開催でした。飛行機はあったのですが、とても高額な乗り物でしたので、夜汽車に揺られての2日がかりの長旅でした。

初めての全国大会ですから、すぐ負けるだろうと思って戦ったら、1回戦、2回戦、3回戦と勝ち進みました。

旅館代が残り少なくなり、あわてて、東京に残っているOBの先輩が、選手の家に旅費を集めてまわりました。

準々決勝の相手は、長野県立上田松尾高校（翌々年に上田高校と改称）です。

このチームとは、浅間に合宿に行った時に勝っていましたが、真夏の炎天下で相当バテていたことと、相手が、当時としては珍しく、レフト・ライト両サイドから攻撃してきたので、前衛が振られて一層疲れてしまったことが原因で敗退しました。都会のチームのひ弱さもあったかもしれません。しかし、初出場ながら、ベスト8まで勝ち進んだことは、とても栄誉に値する功績でした。

この時以降、バレー部は全国大会には出たことがありません。1970年代以降は、支部大会の予選で負けることが多くなりました。これは、明高が進学校化して、頑健な生徒が入部しなくなったことや、後に松枝先生が病気をされたことなどが考えられます。

14年前に松枝先生が退職され、現在の山中先生は、松枝先生の後輩にあたる筑波大学のご出身で、科学的なトレーニング・練習方法を取り入れ、関東大会にも勝ち進むほど実力がついてきました。

現役バレー部の諸君、全国大会までもう一歩です。

君たちには、300名のOBがついてます。

がんばってください。

男坂で鍛えられた卓球部

昭和39年卒　佐藤　信征

毎日厳しいトレーニングの連続、それはただ一つの目標「インターハイの代表になる」為のものだった。さらに夢は、明治大学に入って「日本一になること」だった。

卓球部は技術的な練習以外に、体力作りのトレーニングが伝統的に厳しかった。圧巻は何といっても男坂の往復20回、このトレーニングが最もキツク、足腰をきたえるのに最も効果的だったのである。

明高生といえばやっぱり「質実剛健」がモットーであり、明治らしさではないかと思う。

ひたすら夢と目標に向かって邁進した自分を今でも、明治らしさという点で誇りに思っている。

その結果として一つの目標であるインターハイは、同期の間宮氏と組んだダブルスで東京都代表になり、さらに本大会でランキング6位に入賞する事が出来た。

そしてその後、後輩達も頑張ってシングルスでも団体戦でもインターハイ出場を果たしてくれたのである。

また、私が果たせなかったもう一つの夢を、後輩の前原氏が明大時代から全日本選手権の上位入賞を繰り返し、全日本チャンピオンになるという快挙を成し遂げてくれた。この前原氏の功績は非常に大きく、その後の明大卓球部が全日本チャンピオンを数多く輩出する原動力になった。

今思えば、中学高校が共学であれば恐らく成し遂げられなかったのではないか。様々な誘惑に負けずに一途に打ち込んだ結果であったと思う。

これは社会に出てからも大いに役に立っていると思う。

私事になるが44歳の時、二代目になる為の修行を終えて父親の会社（年商20億円）を継ごうとした時、不当な乗っ取りに遭い父の会社は大手スーパー系列に取られたのである。

弁護士は裁判で勝てるといったが相手が大き過ぎたし悪すぎて、とても太刀打ち出来なかったのである。

私が途方に暮れていた時助けてくれたのは、卓球部の先輩、同期、後輩達だった。お陰で私は勇気を貰い立ち直る事が出来、別の会社を作って今日がある。私はこの時ほど先輩方から教わった明治魂を感じた事はなかった。

土壇場の精神力、そして他人への思いやり、私はいろいろな卒業生を見ているが、立派な社会人が多く出ている事を誇りに思う。私は「明高卓球部のお陰」、「男坂のお陰」

と感謝しながら生きている。明高といえばやっぱり男坂、そして男子校が似合う。共学は他の学校に任せておけばよいのではないかと強く思う。

アイスホッケーでの思い出

昭和34年卒　丸山　旭

高校進級を控えた秋、アイスホッケーとはどんな競技かも定かでないままに、先輩より入会を勧められた悪がき数名、練習に参加してその魅力に全員がとりつかれてしまった。

当時の明大アイスホッケー部には、明高OBの現役で、後に冬季オリンピックに出場された富田正一氏がおられ、コーチとして同じく明高OBの現役松本邦彦氏を派遣していただき、部活動として認めてもらえず満足な練習のできない我々に、大学の合宿への参加まで道を開いていただきました。それは厳しい男社会での葛藤の連続ではありましたが、青春をアイスホッケーに投じ、そこで培われた忍耐こそが、現在の私の貴重な財産です。

昭和60年代だと思うが、明治高校応援団の創部記念に出席した時である。

現役部員がたったの2名、OB諸氏によれば今どき学生服を好む学生はおらず、なにより応援団があってもその活躍する場がないのだと言う。

登録商標　ゼイタク煎餅
東京名物　重盛の人形焼
明治高校PTA会長
重盛元也
〒一一六―〇〇〇三
荒川区南千住二―三四―四
電話（三八〇一）六八三〇

株式会社　サンリッツ
SANRITZ
CORPRATION
営業品目　液晶ディスプレイ用プラスチック偏光板、通信機器周辺製品
代表取締役社長　三上嗣治　（昭和43年度卒）
開発部長　島野竹夫　（昭和45年度卒）
〒176-0094　東京都板橋区成増1－30－13
TEL　03－3930－1101　FAX　03－3920－1167
URL　http://www.sanritz.corp.co.jp　E-mail　sohmu@sanritz.corp.co.jp

明治高校テニス部OB会

昭和51年卒　林　伸光

テニス部OB会は、毎年6月第1日曜日にゴルフコンペ、11月には明治高校校庭に於いて、現役と共に交流テニス大会を行い、もちろんいい汗を流した後は飲み会と、70歳を過ぎた先輩から現役大学生まで親睦を深めております。

私が入部していた30年程前は、たいへん活発に活動しており、とにかくテニス部と言えば体力自慢クラブでした。試験休み以外はすべて、年間330日位練習をしていました。

朝7時からの早朝練習に始まり、放課後は両国、錦糸町など外部のテニスコートへ、土日及び春夏冬休みは、毎日朝から晩まで明治大学の生田コートです。そして、コートが借りられない日は、誰が最初に行ったのか、東京タワーまでランニングをしたり、千鳥が淵1周うさぎ跳び競争があったり。それこそ1週間の合宿などは、引率の先生など来ませんので、水も飲まずに、暑さと、厳しさのあまりみんなバタバタ倒れていました。

いま思えば、「イジメ」と「シゴキ」以外の何物でもなく、みんなよくやっていたと感心致します。

そんなことで、球技感覚、根性、負けず嫌いだけは、人一倍鍛えられたOBが今では、仲良く「いじめた」、「いじめられた」の昔話に花を咲かせ、年2回の集まりを楽しんでおります。

未参加のOBの皆様は、これを機会に是非1度足を運んで来て下さい。ご連絡お待ちしております。

幹　事

昭和51年卒　林　伸光

platec@mvd.biglobe.ne.jp

携帯電話

090－8772－2463

（本年度より幹事が変わりました。）

祝　総明会第40回総会

明　水　会

明治中学・高等学校水泳部OB会

会長　村　嶋　大　三　郎

（昭和34年卒）

明雪会（スキー部OB会）

事務局　五十嵐公一

我々スキー部は、創部53年の歴史を持ち、東京都ではもちろん全国に明大明治スキー部の名を轟かせてまいりました。

インターハイへは、東京代表として、38大会に述べ90名の選手を送り出し、近年では、クロスカントリー種目において10年連続代表の記録を更新しております。

学業との両立が厳しい本校にあって、毎年、予選で勝ち全国大会へ出場することは、所属部員の血と汗と涙の結晶と考えます。

昨年、悲しくも亡くなられた、初代顧問、水落先生の「白銀の舞台での挑戦」を代々伝統とし、OB、現役、一体となり、雪山での厳しいトレーニングを実施しています。

他の運動部より、合宿及び地方での大会が多いため、部員間のつながりも大きく、卒業してからも、先輩、後輩のよい人間関係も形成され、現在OB会員は、350名となっています。

今年も、また全国大会で東京代表明大明治の名が全国に轟くことを切望します。

明雪会
スキー部OB会
会長　若松弘昌
顧問　笹倉康夫

株式会社　岡仁
代表取締役
岡本雅仁
（昭和五十一年卒明々会）
TEL〇三―三四五一―三六七一

厨房のアメニティを創造する
津守興業株式会社
代表取締役　津守　徹
（昭和51年卒明々会）
〒332-0001
埼玉県川口市朝日5-5-22
TEL　048-222-6187
FAX　048-222-8584

米山廣昭

米山武男

米山耕右

「物理部の思い出」

明物会顧問・第二代部長
昭和45年卒　北島　一弘

1967年（昭和42年）、科学部が二つに別れ、科学部と物理部としてスタートしました。初代の部長は44年卒（男坂倶楽部）の尾崎　哲氏です。部員数が多かったので、4つの班に分かれて活動していました。アマチュア無線班、HOゲージ班、オーディオ班、ラジコン班の4つです。私は高Iでしたが一番楽しそうなHOゲージ班に入りました。

普段の活動は各班ごとに先輩から後輩へのレクチャーや勉強会、班ごとの製作活動や自主活動と様々でしたが、運動日の千鳥ヶ淵までのランニングも楽しみでした。文化祭が近づくと製作で一杯一杯の状態になります。見栄えのする展示物が多かったので、作るのも展示も当日の説明も大変楽しかったです。

私が部長の時に「コンピューター」を製作し展示しました。1968年のことです。同級生の山口氏と大島氏が設計しました。マブチモーターと電光掲示板を使い、「一桁＋一桁」の計算結果が一桁のものに限りますが立派に作動しました。当日の朝までは！

製作が間に合わず、前日は学校に内緒で物理教室で徹夜の作業になりました。夜中に尾崎前部長が差し入れに来てくれたときは本当にうれしかったです。朝には完成し、動作確認もして、万歳しました。でも、本番では作動せず「幻のコンピューター」になってしまいました。

物作りの楽しさは、物理部で覚えたのかもしれません。考えながら作る楽しさを覚えるのが物理部の目的かもしれません。最近は部員数が少なくなっているようですが、現役の物理部の諸君、頑張ってください！応援します！！

祝 第40回総明会総会
明物会
明治高校物理部ＯＢ会

昭和四二年卒
尾島育四郎
三徳印刷株式会社
中央区京橋二―三―四
電話三二八一―三〇一六（代）

明治高校バレー部OB会

会長　山口　一磨（昭和27年卒）
監督　山中禎一郎（明治高校教諭）

生徒会本部紫紺クラブ
生徒会本部OB会
会長　三浦昭生（昭和三八年卒）
事務局長　長谷川　裕（昭和四三年卒）
TEL五六一六—四三九五

総明会顧問　明治白駿会前会長　明治高校PTA顧問
株式会社 東京富士カラー
代表取締役社長　山浦晟暉
昭和29年卒
本社 〒164-0012中野区本町2-29-12
TEL 03-3378-2111(代) FAX 03-3378-2112

昭和四七年卒
五木田・三浦法律事務所
弁護士　三浦雅生
〒一〇四—〇〇六一
中央区銀座五—一—一五
第一御幸ビル四階
電話　三五七五—〇一九〇

昭和四一年卒
41明友会

昭和42年卒　明水会
銀座中央法律事務所
弁護士　小野寺昭夫
〒104-0061中央区銀座8-6-25
河北ビル5階
TEL03-3573-7661 FAX03-3573-7663

祝　総明会第40回総会
49年卒　翼　明　会
代長　竹澤　啓　会計　佐藤眞弘

故松枝先生を偲んで

「バレー部の輝かしき時代」でも、書いてありますが、故松枝先生こそ、昭和の明治高校を、背負ってきたと言っても過言ではないと思います。

また、そのような偉大な先生の思い出を一人の方にお願いするのも、たいへんなことでありますので、ここでは、皆さんが、どのように松枝先生と接し、教えられてきたかを、先生の一周忌に出した「心」に投稿された方の文を抜粋して、皆さんに先生の教えをお伝えすることにしました。

明治高校初出勤の日

同窓会元副会長
野球部元監督　卯木　敏夫

思えば、先生との出会いは学校の周辺まだ見渡す限り焼け野原であった昭和二三年四月、私が職員室の清掃中、やや小柄ながら肩が小山のように盛り上がり見るからに精悍な顔つきの二十才そこそこの先生と視線がばっちり合い話しかけられた時からですから随分昔からの長いかかわり合いです。そして四十年、先生とは顔が合えば明治のことを話し続けて来ました。他のことは何も話題に出ません。ただひたすら、あきることなく、明治の教育について、明高生について、時に口角泡を飛ばし、つかみからんばかりの迫力で激論を交わしたものでした。

バレー部　試合中

バレー部OB
昭和40年卒　飯田　宏

殴られ、蹴られ、顔面レシーブ、殺してやろうかと飛び掛かる寸前、そうだその気迫だ、絶妙の呼吸の先生。天才的読心術、野性的直感力、教育的決断力、勝った戦が往復ビンタ、何でや、負けた試合は握手を求め、先生は、何を伝えたかったんだろうか。（中略）僕らの精神力を確かめられたのでしょうか。

松枝先生の涙（学寮焼失）

昭和46・47年度
PTA会長　渡辺　栄哉

昭和47年7月に初めての校外教育として中学一年生諸君が学寮にむかわれました。到着した数時間後に全焼という惨事に見舞われました。その報せを受けた私は、数名の役員と共に夜行列車にて安否を気遣い乍ら早朝現地に到着致しました。煙のくすぶる学寮を茫然として見つめ乍らも全員無事だった事が不幸中の幸いでした。手足を真黒にして活躍された先生の姿がありました。校長と松枝先生が駆け寄ってこられ、思わず手を握りしめ「申し訳ありませんで

した」と言った先生の目に大粒の涙がいっぱいたまっていたのを私は今も忘れません。決して先生の責任ではないのです。先生の心の中は教育に一生を捧げ、信念を以って築かれた学寮が一瞬にして失った、男としての無念が涙となってあらわれたであろうと私はヒシヒシと伝わってまいりました。情熱をかけた男の涙！！

本当に美しく光っておりました。

明治高校退職の日

明治高校教諭
現バレー部顧問　山中偵一郎

実際に私が松枝先生とお会いしたのは、松枝先生の定年退職で明治高校最後のお仕事であった卒業式で、たった一度だけでしたが、お話しをする機会がありました。その際には、短い時間ではありましたが、いろいろなお話をすることができました。バレー部のこと、今の生徒のこと、先生の学生時代の事、そして先生のバレーボールに対する考え等々をお聞きしましたが、先生の「バレーボールはいいねえ」という一言が印象に残っています。松枝先生のやってこられたバレーボールが、このひとことに表現されていると私は感じました。

まとめ

バレー部OB会会長
昭和28年卒　山口　一麿

私も松枝先生の思い出を語る時、どうしても忘れられないものは、眼鏡越しに見つめる大きな瞳、大きな声でした。（中略）教育の風化が叫ばれて久しいが、松枝先生があの小さな体で大声で、生徒をどなっている時の表情は、生き生きしていたと思う。先生は最後まで先生の教育理念、教育姿勢を守り通した人だと私は想っています。（中略）人と人とのふれあい、語りあい、スキンシップを通して、生徒の身になり、ある時は愛の鉄拳を我々に振う、そのパンチにより奮起する者、また崩れる者、まさに紙一重の教育効果を狙った先生の選択であっただろう。（中略）特に先生が生徒を想う心づかいは大変なものだったと私は思います。ともかくOBとの関わりをより大切にし、想い出を語るときは、出逢いから現在までをOB一人一人について克明に語られる。先生の頭の中にはそんな思い出がいっぱいつまっているのかもしれません。

茅原ベルト株式会社
代表取締役会長
茅原誠也（昭和三二年卒）
〒〇〇五三
千代田区神田美土代町十一―五
TEL　〇三―三二九一―七六四一
FAX　〇三―三二九五―五六六八

「修善寺物語」
～故 小田島先生を偲んで～

昭和47年卒　桜井　吏

思い起こせば1971年7月、梅雨も終わり学校側の行事として高Ⅲ生徒が受験ノイローゼにならない為の1泊研修旅行をする、という事で伊豆修善寺温泉へ高Ⅲ全員（約270余名）で出発しました。後に「修善寺事件」という、明治高等学校開闢以来の汚点と云われた物語が始まろうとは、先生方は夢にも思っていませんでした。

到着した夜、旅館の前の修善寺川をはさんで目の前に寿司屋、焼き鳥屋、居酒屋が並んでいるのを発見した我々は、誘惑にかられ旅館を抜け出しました。生徒約60名程だと記憶しております。当時、学年主任が浅野先生、各担任が小田島先生、釜屋先生、清水先生、雨宮先生、山口先生だと思います。先生方も宴席を設け、酒を酌み交わしていた時、ふと窓の方に先生が目をやると、明高不貞の輩数十名が同じ様に、楽しく酒を酌み交わしている姿を発見しました。さぞ先生方は驚いた事でしょう。なにしろ川をはさんでお互い大宴会。そんな事とは露知らず、我々は寿司屋の大将に命じ店のシャッターを下ろさせ、「本日は貸切という事でネタケースの物は全部頂きます」などと高校生に有るまじき発言をし、酒、寿司等をほとんど平らげて、午前3時頃窓から旅館に帰った処、いきなり懐中電灯に照らされ「そこまで、そこまで！」と、小田島・清水両先生の怒鳴り声が響き、26名余りが廊下へ行かされ正座を命じられました。それから3時間ほど夜明けまで愛の鞭と説教を頂戴しましたが、いかんせんベロベロの泥酔状態なのでまったく痛みも感じず、反省する意思も働かず、足だけが痺れていた事を思い出します。私達、寿司屋組の大半12名程は教宣、剣道部、テニス部等に所属していた事もあり無期謹慎（54日間）の処罰を受けました。どこの部活動にも所属していなかった友人は無期停学（60日程）だと思われます。我々学年はその後、喫茶店喫煙事件、ジャン荘事件、カーテン破損事件等があり総計百名程の大量処分者が出た事を記憶しています。

亡くなられた小田島先生を偲ぶ時、あの修善寺の旅館で先生に愛の大外刈りを頂戴し、泥酔の中、気持ち良く宙を舞った事を今でも鮮明に覚えて居ります。

当時、修善寺で呑んだ暮れて謹慎を食らった仲間、皆さんお元気でしょうか？

明治高校美談
「学年主任保坂先生・清水先生裁定感謝」編

昭和51年卒　岡本　雅仁

高Ⅲの時、同期の友人から一学年下の後輩に駅で殴られたと訴えられ、犯人探しに高Ⅱの階へ行き相手をつきとめると面識のある〝K〟であったことが判明。真意を質すため近づいたところ、声を掛ける間も無くいきなり私の顔面を殴りつけて来た。

このことで、友人の問題から私の問題となり、報復のパンチを返すため追いかけましたが、授業の為先生が来られ、仕方なく次の休み時間まで一旦引き下がることにしました。

しかし、私が殴られたことが、同期のツッパリ仲間に知られるところとなり、タイマンで解決するつもりが、不本意ながら複数で俗に言う〝袋だたき〟にしてしまいました。

次の授業中に担任の清水先生に、私達5人が呼び出され、職員室に立たされて事情を聞かれました。長時間立たされたように記憶しています。

その間、脳裏には〝停学？退学？大学推薦なし？やばい〟と色々と交錯していました。

動機そのものは間違っていたとは思っていませんでしたが、やり方はとても自慢できるものではありませんでしたので、覚悟し両親にも申し訳ない気持ちでおりました。

その日は、故福島校長先生が出張中で学年主任の保坂先生方の裁量となりました。

保坂先生が「明中・高は、先輩後輩という縦の繋がりを非常に大切にしている学校です。理由はともあれ、後輩が先輩を殴ったことは悪い。ここでKから君たちへ謝罪をさせるので許し、もうこれ以上手を出さないように。それでいいか？」と仰られました。

程なくして、先生に連れられボロボロのK君が現れ、謝罪を受け、我々ももうこれ以上K君へ手を出さないことを約束し、一件落着となりました。

この時、私達5人は保坂先生・清水先生方の裁量で〝何らお咎めは無い〟裁定に言いようも無く心が震えました。

その後K君とトラブルこともなく我々は無事大学に進学することができました。

このことは、〝私の忘れられない明治高校の思い出〟であり誇りです。

また、今年の幹事学年（K君の同期）より、K君が相手構わず喧嘩する向こう見ずなパワーを軌道修正し、大学進学後さらに医大へ進み現在医者として大成していることを聞き、大変嬉しく思います。

明治高校〝バンザイ〟ありがとうございました。

昭和44年卒 男坂倶楽部 秘話「幻の番長」

時代背景としては、高倉健さん主演による、東映任侠映画全盛の時代。封切り初日には健さんの舞台挨拶を見に下校後まっすぐ丸の内東映に直行、さまざまな学生や暴力団風の方々で混雑していました。又、ゴーゴーが流行し赤坂に無限などのディスコが続々オープンする頃でした。

そのような時、東京の○○学園が修学旅行先で喧嘩、器物破損等大暴れをし、不祥事件としてマスコミが大きく取り上げました。当時としてはショッキングな社会現象となり、全国の学校関係者が警戒したのでしょう。

我が明治高校も4年前に甲子園に出場した名門校であり、福島校長をはじめ先生方は1ヵ月後に控えた修学旅行の善後策を熟慮され、問題を起しそうな生徒は連れて行かないとの校長判断を下した。その事を、修学旅行委員長H氏を通じて私たち数名と話し合いがもたれました。私どもは「俺たちの親が旅行費用の積立てを学校側にしているのに、お前たち委員にとやかく言われることはない」という話から始まりましたが、規則を守るという条件をのみ旅立つことになりました。

私どもの学年は硬派と言うより軟派でしたし、1学年上の43年卒、1つ下の45年卒の方が問題があると思っていましたから何も有る訳ないだろうと和やかに寝台車で九州に到着。ところが宿泊先の旅館に関西系のとんでもない学ランを着用し油で固めたリーゼントスタイルという集団が少し遅れて到着しました。

夕食後、当時の娯楽施設と言えば、大きなジュークボックスが1台置いてあるだけのホールだけだったのですが、当然のごとくそこで明高側15名程度、関西系の生徒20名程度がホールで鉢合わせとなり、暫く重い空気が流れました。曲に合わせてのステップにおいては東京の学校のほうが数段上だったものですからキミ達踊れるの？みたいな感じで、彼らを取り囲み踊って挑発しちゃいました。そうしたら彼らは自分たちのフロアーに帰って行き、30分くらいして学ランに着替えて戻ってきて、我々の一人に「うちの番長がそちらの番長さんと是非お話がしたいので、お越し願えないでしょうか」と丁重な挨拶をしました。「来ちゃったよ…。」という感じで私たちも部屋に戻り相談となった。と言うのも、私たち学年には、そういう制度がなく、勿論番長など居る訳がない。「どう

する？」「おまえ行って来いよ！」「えっ俺が？！」「他には？」「……」

結局、私が当時喧嘩の強かったI氏と行く事になり二人は腹をくくりました。まったく高倉健、鶴田浩二のごとく着流しならぬ浴衣に着替え、2フロア下に降りて行った。そこには何と廊下に左右に分かれ20人くらいの学ランを着た生徒が直立不動で道を作りここを通ってくださいという。部屋に着くと、奥に座布団を3枚くらい重ねた牢名主然とした番長が構えていた。まったく東映映画の撮影スタジオか？私たち二人は緊張もしていたが笑いをこらえるのも大変。その後、「出来ることなら揉め事は起こしたくない。明治高校の番長さんのお考えはいかがでしょうか？」と願ってもない申し入れに「出発までお互いにフロアーを出ない」と言う取り決めをして合意した。笑顔ひとつ無い緊迫した話し合いだったが自分たちのフロアーに帰って仲間に報告する時には、緊張が解けホッとし大笑いだったのは言うまでもない。未だこの事件を知っている者は数少ない。男坂倶楽部の思い出話です。

※不祥事事件について全国の高校が警戒していた時期。

先方側から申し入れて来たことを考えると先方も学校側から止められていたと推測でき、ジュークボックスを占拠して踊ったゴーゴーが一触即発の事態となり、先方の番長も握ったコブシを使わずに面子を保って解決する方策として番長会談で手打ちに持ち込んだものと考えます。全体の流れを汲み表題「幻の番長」として会報に掲載させていただきます。

今回、男坂倶楽部のH氏を通じて会報掲載取材に応じて戴いたF氏に感謝します。

文責　会報委員　小嶋　真作
石黒　理樹

ワイシー企画 株式会社
代表取締役　藁谷　豊
（昭和44年卒）
所沢市緑町4－37－13
電話　04－2923－3381
FAX　04－2923－3399

昭和8年卒　昭八会

昭和8年卒　市川　康夫

私達は、昭和3年から昭和8年までの5年間明治中学にお世話になりましたが、当時の校風は、全く質素で地味ながらも実のあるものとの印象を強く感じています。これは勿論鵜沢校長はじめ学校の教育方針にも依りますが、明治年代の昔気質の残った実直な年配の先生が多かった影響もあったと思っています。

なにしろ授業料は当時の私立中学の中では最低レベルで寄付金などもなく、そのためか施設などはお粗末で、建物は赤煉瓦の本校舎以外は木造2階建ての中に入るとユラユラ揺れを感じる剣道場があったのみと記憶しています。年1度の修学旅行も毎年近郊の神社仏閣などへの日帰り旅行で、5年生だけが1泊旅行という簡素なものでした。

このような質素な校風でも、何故か親しみ易く今でも懐かしく思っています。

私達も卒寿を迎える年令となり、会員数も非常に少なくなりましたが、昔のことなど思い出しながら頑張って生きて行きたいと思っています。

花や鉢物のお届けします。
昭和45年卒
株式会社
ポトマックガーデン
代表取締役
平田幸彦
〒107-0052
港区赤坂7-8-13
TEL03－3589－0687
FAX03－3583－9423

上陽テクノ株式会社
代表取締役
阿部正行（昭和40年卒）
千代田区外神田6－10－11
TEL03－3834－1329

川口明高会

歴代会長

初代　大熊　康浩（昭和29年卒）
2代　目良　昇（昭和31年卒）
3代　久松　勇（昭和33年卒）
4代　天野　洋一（昭和35年卒）
5代　故　荻野　布昌（昭和40年卒）
6代　石井　次男（昭和43年卒）
現　会　長
7代　由本　俊昭（昭和45年卒）
事　務　局
石井　君忠（昭和57年卒）
048（294）3780
会員数200名

昭和21・22年卒に跨がる同期「午巳（うまみ）の会」

昭和21年卒　斉藤　久也

戦後の学制改革で巣立ちが二期に跨った特異な存在。

会名の由来は、干支の巳年午年（早生まれ）から単純に浮かび定着した。

団結力に富み、卒業直後のクラス会からの七年間を除き、同期会誕生と共に新年会・讃友会（旅行）・同好会と年二～三回の会合を継続してきている。

本年度の新年会は、大崎・ニューオータニイン東京（1・24）

初参加の3名を含め26名。語り・飲み・笑いの3時間を過ごした。恐らく「渾名」で呼び合える唯一の会ではなかろうか。師弟の息遣いが伝わるような在学中の話題、勤労動員中の女子校生との淡い思い出（一部）、空襲被災下での苦難の数々、限りない話題が飛び交い、胸中を色濃く染め上げて広がる。

家族より永い60年に及ぶ付き合いは、未だに消息不明の友24名に及んで終わるのを常としている。

しかし、時間の大半は、「質実剛健」の校風を、情を交えて率先垂範する師と、それを肌に感じながら行動する生徒に裏付けられていたことを実感することに費やされる。

「学業遅れの生徒を自宅に呼んでまで補習してくださった師」

「生徒の悪巧みを承知して乗って意思の疎通を図ってくださった師」

「戦中戦後の配給制度を愚直なまでに守り抜き清貧の道を説いた師」

「授業逃亡の生徒を上手に復帰させた師」

…幾度となく繰り返す話題ではあるが尽きることが無い。

世の人の多くは、「過去の思い出…云々」と言うが、本年初参加の友が「仕事を終え、やっと辺りを見回す余裕が。そこに語り合える友がいた。逢いたい・行きたい・行こうと飛んできた」と！

我が同期「午巳（うまみ）の会」は、いつまでもこの様な雰囲気を保ちながら存続させたい。

代表　昭和22年卒　小林　昭雄

現会員64名

昭和25年卒　明二会

昭和25年卒　小田川玉城

毎夜のこと、空襲警報のサイレンが鳴った。電灯は点けられない屋外には慌しい気配が感じられる。私と兄は暗闇の中で素早く服を着る、順番にたたんであるからだ。

そんなある日突然、兄に召集令状が来た。思いもかけなかったが、当時では当たり前のことだった。実は、私は学校、兄は会社への二人暮らしであった。途方にくれたが、なにを考えなにをしたかは記憶にありません。時に私は明治中学一年生でした。仕方なく茨城県（父の実家）へ疎開したわけです。丁度春休み（昭和二〇年三月）で都合よく行きました。しかし休みは終わりを告げようとしていた。

ピピピピー。「もしもし小田川ですが」「おい居るか！」「居るよ」「じゃあ行くよ」明治高校昭和25年卒業以来54年たった今でも、この有様である。両親に願った5年間の通学は5時起き駅まで10キロ、2時間半の通学は辛かった。とくに冬は辛かった、が私の選んだ道は過ちではなかった。明中が好きで、級友が好きで、別れることができなかった。こんな友人が何人もいる70歳を過ぎたいま幸せだとつくづく想う。

この様な仲間と毎年、明二会（同期会　会長高橋信雄氏）を開催する。会場・会費・景品等コンパニオン頼むとか否とか昔仲間とわいわい楽しいものだ。また厳しかった先生方もいまは好々爺、とおもったら明二会全員好々爺だった、また楽しい。

（追記）高橋　信雄

私達は70才を少し超えたが、毎年の同期会は欠かす事がない。現在総明会総会が秋に開かれるので明二会（メイジカイ）は春の行事になった。今年も新宿のホテルに90才の誕生日を前にした栗原先生、八十歳代を若々しく生きる境田

明治高等学校・明二会　2004.4.9

先生と松本先生にお出掛け願って三十余名が集まった。（写真の通り）。

栗原先生は「この夏モスクワで開かれる中国文学会に、出来れば出席したい」と挨拶され会場が沸く。

年一度先生方の生き方に触れ、旧友と言葉を交わし気分は一気に中・高生へと若返る。

そして自らを励まし、健康を喜び、再会を期し、満たされた思いで会場を後にした。

（注）私達の多くが明高二回卒業生なので明治の呼び名を貫ってメイジ会と命名。学制改革の為に卒業年は人により異なる。

根性物語？

平成14年卒　上原　康仁

「根性物語」という題名を聞いてビックリしてしまった。

根性、我慢、そんなことは無縁だった。そんな言葉を僕が出したら先生が笑い出すだろう。

大学に入るときに仲間内によく話したことがあった。それは「大学では明高出身とつるまない」という話で、大学という新しいスタートをきるのに狭い世界に閉じこもるのが嫌だし、周りにもそうして欲しくなかったから。

しかし、やはりそんなことをいっておきながら大晦日や紫紺祭などにかこつけては、理系文系に関わらず電車がなくても会いに行ったりする。

そういう会いたい人間が沢山いて、そこから交遊の輪が広がっていくのが明治の素晴らしい所であり、続いて欲しいなと思うことである。

遊びと仕事をしっかりわける忍耐、人に対する尊敬の心（野球の応援で他校に罵声を浴びせる人間は見苦しい）、そういったことを忘れなければ、質実剛健という心は自ずからついてくる、と思っているけど、これも友達が見たら笑うな、と思う。

寺村梱包株式会社
代表取締役　寺村武二
（昭和26年卒猿楽会）
取締役　寺村一義
（昭和56年卒）
〒113-0033
東京都文京区本郷2-19-11
TEL 03(3813)6686
FAX 03(3813)6689

祝第40回総明会総会
猿楽会
昭和26年卒
会長　卯木敏夫

昭和26年卒 猿楽会

去る6月27日（日）に湯島にある東京ガーデンパレスにおいて、猿楽会の同期会が開催されました。総明会の服部副会長、幹事学年3名でお邪魔させていただきました。今の総明会というマンモス同窓会の基礎を作った方々の会という事で少々緊張気味でした。

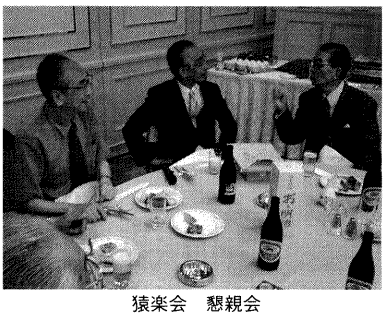
先輩との語らいで教えていただきましたが、猿楽会で横だけの同窓会から縦横斜めの同窓会をやろうと話しが持ち上がり、猿楽会主催の総明会を3回開催したのが始まりだそうです。また和気藹々と楽しんでいる中で、寄付広告のお願いも快く協力していただきました。

閉会後の原稿打合せで入った居酒屋に、猿楽会の先輩が偶然見えられ「そっちの打合せが一段落したら合流してもいいぞ」との暖かい声が懸かり、呑み助の私たちは原稿打合せをさっさと切り上げ、飲んでいたジョッキを持ってすかさず合流。明治高校に纏わる思い出話や心意気の話に華が咲き、酒宴は盛り上がってしまいました。自分たちの親程も離れた世代にも拘らず、明治の話題になると紫紺同士の会話になることに驚きました。

総明会の幹事を引き受けた当初は、とても面倒臭い気持ちで始めたのですが、卒業して27年ぶりの同期とは懐かしく利害関係を超えた信頼関係を得、色々な準備打合せを通して意見交換する先輩方の熱い思い、学年を飛び越えて見守っていただいてる大先輩達の熱い視線を受け止めているうちに、最近縦横斜めの意味が、目から鱗が落ちるように解ってきました。

この総明会は、純粋に〝母校明治高校が好きだ〟の一点で集まり、嵐に遭えば避難して、傷つけばドック修理の場として、心の燃料が不足すれば補給で立ち寄れる「卒業生の人生の母港」と受け止めました。更に視野を拡げ、仕事では築けない人生のネットワークを構築し、質実剛健に生きたいと思います。

文責　会報委員　小嶋　真作
　　石黒　理樹



猿楽会　懇親会

チーター・ラッパズボン・汗まみれの練習

昭和43年卒 紫讃会　堀内　繁

私が中学入学したころの校舎は、北側の体育館のある校舎はなく、そこには古びた床の鳴る武道館とその下に部室が並んで、私のバスケット部並びに体育に関する思い出が多く詰まっていました。

当時は体育館がなく練習の場所に苦労し、大学の駿河台校舎の体育館での早朝練習、コンクリートの校庭での放課後練習、夜は大学の和泉校舎体育館で大学生との合同練習と一日3回したこともありました。そんな猛練習の部であったにもかかわらず、我々の代の問題児がバスケット部に多く集まったのも事実で、顧問の山口先生は大変苦労されていたと記憶する。

我々は、熱血先生チーターこと松枝先生に一度も習っていない学年として珍しい学年でもありました。授業中校庭で威勢のよい号令と竹刀での叱咤を横目で見ていましたが、なぜか私は何度も休み時間、課外で熱血鉄拳指導を受けた記憶があります。そのころの学風は、文武両道・質実剛健・自ら進運を開拓する精神がかなり前面に出ており、チーター・ラッパズボン（なぜか中学入学時バンカラな高校生のお兄さんがこれをはいていた）・汗まみれの練習が鮮明に思い起こされます。また、高校生に成り立ての時に恩師の清水紀夫先生が着任して、スマートな姿にあこがれた青春時代でもありました。

これから数年後、校舎移転・男女共学と古き時代とは離別してどんな明治魂が芽生え創り上げるか、心配でもあり期待をしているこのごろです。

紫讃会 総会風景

昭和43年卒
齋藤会計事務所
税理士 齋藤昌照
〒231-0023
横浜市中区山下町194外丸ビル3F
TEL 045−664−4175
FAX 045−664−4177

昭和43年卒
株式会社 ホソヤ
代表取締役
細矢 日出男
〒104-0042
東京都中央区入船3−9−1　第2細矢ビル
TEL 03-3551-0725
FAX 03-3551-0748

バンカラ

平成15年卒　武　雄一郎

「バンカラといえば明治」。昔はわが母校もそう呼ばれていたらしい。この言葉は現在ではもう使われなくなってしまったと言っていい。

「バンカラ」…。私を含めた若い仲間内でのバンカラのイメージは「硬派・昔ながらのツッパリ」というものである。漠然と応援団や運動部の男臭いイメージと粋がっているのではない正統派といえばいいのか、そんなツッパリを連想してしまうのである。

「バンカラ」という言葉はハイカラという言葉の誕生と共に明治に生まれた。完全に対になる言葉ではないが、「ハイカラ」という先駆性・流行性、悪く言えば流動的・西洋かぶれというイメージを否定する感覚の言葉であることは間違いない。流行を嫌い、わざとボロボロの服を着て、ツッパルというのが当時の感覚。一見すると野蛮（バンカラのバンは蛮である）な学生と思えるためか、辞書ではいい意味では載っていない。「言動・風体が粗野なこと」などである。それでは「バンカラといえば明治」とは悪口だったのかというとそうではないらしい。例えば古い文献を尋ねれば、「明治32年私が始めて東京へ出て来て、芝の学校へ入った時分の東京の学生の気質は、文化的でもなければ、不良少年でも無く、何れも帝国主義的愛国志士的だった。風俗もバンカラなれば思想もバンカラであった。（生方敏郎氏「明治大正見聞士」）」と悪口とは思えないようなこんな記述がある。ますます分からなくなる。

そこで、昭和30年代卒のOBにバンカラとは何かを尋ねると、「自分の道を貫くためにツッパル」ということだと笑った。また「反骨心」という言葉を用いた。大逆事件で政府の画策に対して意義を唱え弁護に回った平出修先生（明大卒）、また圧倒的に不利な日本戦争犯罪者に弁明の機会を与えるために国際審判へ参加した鵜澤総明先生（初代本校校長）など、その後、明治史を読み進めた私は確かに「必ずしも利権に対してではないが、自分の正義を貫く姿勢」が明治生の根底にはあると感じ取った。それがバンカラに直接当てはまるはずはない。が、当初、流行に対してという狭義で語られていたバンカラは、時を経て「時には反骨心をもって個を貫こうとする姿勢」へと革新していったと思えるのは私だけだろうか。そしてこれらの精神は今でも

掲げられている教育方針である「独立自治」という言葉がそれを物語っているのではないだろうか。男子校と中高大一貫という特性や環境もそれに輪をかけていると考えられる。

そうやって広義にバンカラという言葉を捉えていくのならば、流行に乗って繁華街に繰り出すというより、文化祭に燃え、部活に生き甲斐を見出し、汗まみれ泥だらけになる姿勢。仲間同士でスクラムを組み、校歌を高らかに謳い上げ、大笑いし大泣きする様は、ある意味現代的な明治気質の現われではないかと思う。

死語となってしまった「バンカラ」という言葉。その時代に本当の意味で理解して実践していた先輩方や先生方はもういらっしゃらないかもしれないが、それでも現代を生きる先輩たちがバンカラという言葉にこだわるのは、未だにそれらの精神の一部が息づいている証拠なのだ。私たちの世代では考えられないような羨ましいほどに深い愛校心もそこから生まれてくるのかもしれない。

生方敏郎氏
早稲田大学英文科卒

平出　修氏
明治大学卒で、明治中学卒
かは不明

結城法律事務所
結城康郎
（昭和42年卒）
〒105-0001
港区虎ノ門2-6-4
第十一森ビル10階
TEL03-3506-1151
FAX03-3506-1152
e-mail-yuuki-ko@bi9.so-net.ne.jp

昭和四八年卒
四国商事株式会社
濱本義典
〒一六五―〇〇二六
中野区新井一―五―十二
電話　三三八六―五六六四
FAX三三八六―七六一九

台東区上野3―17―8
田沼第一ビル4F
弁護士 小坂嘉幸
TEL　03―3831―6032
FAX　03―3831―6037

昭和四七年卒
有限会社　犬塚木工所
代表取締役　犬塚浩章
〒164-0012
中野区本町三―一四―一七
TEL〇三―三三七三―〇二六五
FAX〇三―三三七三―〇二六七

Kanto-Estate
昭和49年卒
代表取締役 宮下守正
（宅地建物取引主任者　行政書士）
株式会社 カントー・エステート
東京都知事免許(13)第2612号
〒116-0011東京都荒川区西尾久1-20-12M2ビル
TEL　03-3894-8161　FAX03-3894-3682
E-mail　good.job@tcn-catv.ne.jp

蛮カラO氏の日課等

昭和52年卒　小嶋　真作

総明会の役員で、背筋をピンと伸ばした、苦みばしったイカツイ紳士の先輩がいる。

その人は、高校時代は水泳を、大学時代は合気道を修練され、鋭い視線を放つ手強い先輩。ニラミを効かせる反面、懐に入ってしまうと後輩思いの熱い先輩。一部の後輩には恐れられ、一部の後輩には慕われる先輩。

そんな先輩の日課と行事について取り上げてみた。

先輩の起床は朝6時。目に入れても痛くない末娘の「お父様お早うございます」の挨拶で目を覚ます。例え、事前に目が覚めていても、娘の声を聞くまでは目を開けない。

起床後、すかさず拳立て70回3セット、腹筋を同セットこなして体に渇を入れる。

最愛の家族の顔を見ていると、「お父さんは働くぞー！」とエンジンがかかるから、朝食は家族全員でいただく。決して夜更かしの寝坊などは許されない。

食事を終えたら家族に「背筋を伸ばして、今日一日精一杯生きること」を主題に10分間程の訓話をする。その後、家族全員の「いってらっしゃいませ」の声で見送られ出勤する。

また、家族の絆を大事にすることから、年間5回ほどの旅行等の行事は家族全員で参加する。一人の欠席も許されない。

ある日の夕方、帰宅したら息子がいつになく神妙な面持ちで相談したいとの申し入れがあり、和室で話を聞いてみると「留年してしまったので学費の面倒を見て欲しい」との相談。間髪入れずに鉄拳を飛ばして「承認！」、これにて一件落着。

男子には男子らしく、四の五の言わず、鉄拳一発で話を終える、ものすごい蛮カラに脱帽。

先輩にご馳走になって先輩宅経由の帰途。

玄関先に出迎えられた清楚なお嬢様に、先輩から「彼らが今度の同窓会の幹事学年だよ」と言って紹介していただきました。

その時の先輩は、何時になくとても朗らかで、蛮カラを張っていても〝やっぱり娘には弱い〟とつくづく思いました。

総明会　会報委員長
昭和五十年卒　明紫会
藍　全

「SHIT（クソッタレ）」

匿名

昔々、運動部が気合と根性で成立していた時代の話です。

当時、男坂30往復、指立て500回、腹筋背筋500回、うさぎ跳び20周等（先輩方はもっとハードだったらしい）今考えると、よく死ななかったな!!と思うそんな練習中の事。

事件は、日課の準備運動の皇居マラソン（5km～10km）中に始まった。

その日私は精神的に不調だった（サボりたかった）ので道連れを捜していた。ターゲット発見、S君だ。早速私はS君にアンダンテのリズムキープを提案した。

「S、歩いていこうぜ!!」

「いや、俺まずいよ」

「そんな事言わずにサァ」

渋るS君を道連れに、私達は桜田門を歩いたのだった。

汗も引き、「そろそろ走ろうぜ」

「いや、俺だめだ」とS君。

「でも、これ以上遅れるとヤバイぜ」

「本当だめ!!先に行ってくれ」

仕方なく私はS君を置いて走り、練習場に着いた。

「遅えよ!!」

「すいません!!」

「Sはどうした」

「調子が悪いようで、歩いてます」

それ以上の追求はされず、ペナルティも無く練習に戻った。作戦大成功!!しかし、当のS君、一向に現れず練習終了。皆で捜しながら学校へ帰ることに。学校に着いてもS君はいなかったが、しばらくして最後に帰ってきた一団にS君がいた。

コーチが青筋を立てて、「S、お前何してたんだ!!」

「ウンコしてました」

「……」

ミーティング後に事情を聞くと、

「あの後腹が痛くなって、皇居の土手で〝野グソ〟をしパンツで拭いて、途中の公衆便所で洗って遅くなった」

一同、目が点。S君の右手には、まだ水が滴るパンツがしっかりと握られていた。

その後S君は大学時代にも、海に入り岩壁につかまりながら大便中に高波に襲われた。〝これが本当のクソまみれ〟事件や、札幌でランニング中もよおし、ウィンドブレーカーを腰に巻いて隠し、あれを手に取っては民家の庭に投げ込み、住民に追いかけられる等の逸話を残す豪ケツになりました。ちょっと汚い根性物語でした。

嗚呼、懐かしい古い顔。

ちょっと　いい話

昭和52年卒　樋田　哲次

今年、幹事学年としていろいろな同期会にお邪魔して、たくさんの先輩にお会いし、お話をお聴きしました。

その中でとてもいい話がありましたので、ご紹介させていただきます。

そこの会の司会者が、ある先輩を真ん中に呼び出しました。

「彼にまた春がきたぞ！ちょっと、しゃべれ」と言われ、その先輩が訥々と語り始めました。

私は、5年くらい前に離婚しました。もう五十代ですし、頭も薄くなってあきらめていたんですが、やはり結婚したくなりあるサークルに入会しました。しかしこの頭では無理かと思い、カツラを買いました。そこで十歳くらい若い女性と知り合いました。話がとんとん拍子に進み、その彼女のご両親へ挨拶に行くことになりました。それまではずっとカツラを被ってましたが、高速道路の休憩所のトイレでハラを決め、初めてカツラをはずしました。彼女の前に近づいても私だと分からず、キョロキョロしていました。声を掛けてやっと分かったようでした。でも、呆然としています。そのまま彼女の実家に行き、ご両親の前で挨拶し、途中の出来事を話しました。お母さんは、娘に向かって「あんたもみならいなさいよ」と言われました。

それから、お二人は幸せに暮らしています。人間、やはり正直に誠実であるべきですね。

昭和39年卒
39会
家田通久
有限会社
学友社書店
03－3202－0272

安心して食べられるドッグフード
Dr.PRO.
ドクター・プロ
昭和37年卒　吉田信行　昭和38年卒　増田利明
東京都葛飾区西新小岩4-37-9（〒124-0025）TEL03(3694)2710

株式会社 **シティ・ハウジング**
代表取締役 佐藤 仁
(昭和３９年卒)
本 社 東京都大田区西糀谷4-28-14
TEL 03-3742-7607
FAX 03-5705-8097
E-mail: jinsato@cityhousing.co.jp
糀谷本店・蒲田東口店・大森店・雪が谷店

昭和37年卒
有限会社小川紙器製作所
小川裕行
〒130-0014
墨田区亀沢3-17-4
TEL(3625)3730
FAX(3623)4265

竹澤保険事務所
日本興亜損害保険株式会社
日本興亜生命保険株式会社 代理店
代表 竹澤 啓
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西9-20-3
TEL 03-3675-9955
FAX 03-3675-9922

昭和44年卒男坂倶楽部
栗田 茂
有限会社 栗田商店
江戸川区篠崎町6-7-15
TEL 03-3679-6475

中学入試合格をめざす小学生対象の算数塾です。
ティープロ算数
TEACHING PRO
代表 香取 輝忠（昭和52年卒）
千代田区神田神保町１－１５ サンサイド神保町ビル３Ｆ
TEL 03-5283-0369 FAX 03-5283-0368 http://www.tpro.cp.jp/

カップ・トロフィー・銀製品・メタル・バッチ・旗・額・記念品のことなら
清田工芸株式会社
代表取締役 清田雄介（昭和56年卒）
〒133-0042 東京都江戸川区興宮町19-5
TEL 03-3654-3101 FAX. 03-3654-3105
post@kiyota-kougei.co.jp http://www.kiyota-kougei.co.jp

ブリリアントクラブにとっての男子校根性物語

昭和52年卒　樋田　哲次

次の文章は我々幹事学年の一人である川崎善弘君が、30年前の高Ⅰの時に書き、その学年末に作成した作文集「白雲千載」に掲載された一編です。

しかし、その中の出来事はそれからさらに3年前の中学1年生の時に、学友仲間と初めての寝食をともにした夏休みの林間学校のことです。

この舞台となった南志賀学寮というのは長野県高山村にあり、須坂市から笠ケ岳に上がる途中の山田牧場の中にあり、スキーや温泉で有名な志賀高原とは笠ケ岳を挟んで南側に位置しているので南志賀学寮と呼んでいました。

学寮は1971年に竣工し、この時が初めての大規模な生徒の受け入れでした。

今年の会報のテーマ「男子校根性物語　質実剛健」とは、ちょっと離れてしまうとお思いかもしれません。学寮焼失という誰も思いもしなかった大きな出来事の中で、これから明治10年間の学生生活を始めたばかりの我々中学1年生に対して、先生やOBの先輩方が、いついかなる時も忘れてはならない真の明治らしさ、男らしさをあの時に教えてくださいました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

学寮焼失体験記

ⅠB　川崎　善弘

あれは、考えてみれば、もう今から三年前も前の事となってしまった。私はあの瞬間を忘れていない。学寮が小雨にうたれ、灰色の煙をあげ、黒々と全焼していたあの瞬間を、あれは、いまだ私の目にはっきりと焼きついている。そして、一生、私の目から離れ去ることはないであろう。

林間学校で私達一同は、バスで南志賀にある明治大学付属明治高等・中学校南志賀学寮へと、喜び勇みながら足を運んだ。そして、確か朝の7・

祝　第40回総明会　総会・懇親会
株式会社プレイアベニュー
取扱商品:パーティーグッズ、パーティーコスチューム　ほか
取締役　大西靜士郎（昭和52年卒・幹事学年実行委員長）
〒272-0135　千葉県市川市日之出5-7
TEL　047-395-4315　FAX　047-307-3636
http:www.playave.com

8時頃に学寮に到着した。道路から下方に見える学寮を眺めた時、立派な学寮だなと思った。そして、学寮に入り、管理人の方々にあいさつした後、林間学校開校式が行われ、福島校長先生の御話や松枝先生はじめ、その他の先生からの諸注意等を聞いた。

それから、中学1年B組の生徒達は、小ハイクで雷の滝へ、A・C組はキャンプ場で、キャンプの設営と、クラス別で行動をした。

我々B組は、雷の滝へ向かったわけだが、そこへ行く道は、林道で地面がぬかるんでいて歩きにくかった。そして雷の滝入り口の前の道で消防車が通りかかったので、私は、「山火事になったらたいへんだな」と、思っていた。

この消防車が後で私達を唖然とさせた事件に関係があるとは、その時には、全く、思いもよらなかった。雷の滝を見学してから、私達は、学寮への帰途をたどった。このあたりから、小雨が降り出し、私達の体に冷たくあたった。それから、なぜか、先生やOBの方々は、しょっちゅう私達に歌等を歌わせたりしていた。これはどういう意味であったのだろうか。もう学寮へ五、六分というところで、先生方は私達を立ち止まらせ、そして言われた。

「学寮が火事で全焼した」と。私は自分の耳を疑い、又そんなことは信用しなかった。

再び歩みだした。少し行くと視野が開けた。その時、今度私は、自分の目を疑った。

なんと、あの立派であった学寮が無残にも、真っ黒こげになり、灰白煙を小雨へと、もうもうと上げているではないか。唖然とした、その時には。そしてその場面が私の目に焼きついた。ショックであった。少しして私達は先生方に率いられ、一応七味ロッジへ避難した。私達はこれからどうするのだろうと思った。しかし、正直いって、その頃の私には、まだ友達と林間学

産地直結のこだわり米　玄米店頭精米の店

有限会社 石川商店「こめ倶楽部」

代表取締役　石川　敏邦（昭和52年卒　ブリリアントクラブ）

〒133-0057
東京都江戸川区西小岩5-6-18
TEL　3672-1935　FAX　36772-1936

校へ来たという、うれしさというようなものが残っていたので、それ程は悲しくなかったように思う。

そうしているうちに私達B組であった者は、近くの頌栄山荘の方々のご好意で頌栄山荘に避難宿泊することになりました。

こうして私達は、無事に野宿することもなく、宿で寝ることができ、質素であったが食事もとることができた。その時の食事は、学寮を出てから、長いこと何も食べていなかったので、本当においしかった。そして又、誠にありがたかった。

翌日、私達は七味ロッジ前に集合し、焼けずに済んだ荷物を見た。残念ながら、荷物の大半は焼けてしまっていた。又、私の荷も総て焼けていた。非常に大事な事を言い忘れていたが、幸いにも中学1年生及び諸先生、OBの方々、管理人の方達も、総て無事であった。これは不幸中の幸いでした。

このようなわけで私達は、着の身着の儘で、バスに乗った。このバスも先生方が苦労して確保してくださったものであった。そして無事に私達は東京へ帰ることができた。

しかし、この陰には、パニックになる程の煩雑の判断事項を松枝先生が瞬時判断して指示された差配があったこと、学寮の炎焼中に、危険を承知で火炎の学寮の中に飛びこみ、できるだけ多くの私達の荷物を外へ運び出そうとしたOBや先生の方々のご苦労や、頌栄山荘の方々の誠にありがたい御好意、なんとかして帰りのバスを確保していただいた先生方のご苦労等、多大なものがあるのである。

以上のように、私達は、一生のうちに数度とない良い経験をしたと共に、人の尊さが分かったような気がする。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

火災の原因は、学寮内のボイラー室付近からの出火ということでした。

練馬　高野台

ネーチャーズフォーレスト株式会社

代表取締役社長 横山茂樹（昭和52年卒 ブリリアントクラブ）

本店　東京都練馬区高野台1丁目3番7号NFプラザ2-304
TEL　03-3996-0612　FAX03-3996-0630
http://www.neritaka.net/　E-mail:nfsy@famille.ne.jp

みんなが、参加して創る、地域活性化のための街づくりを目指して頑張っています。
ネーチャーズフォーレストの名前の由来は、人々の心を癒す森をイメージして名付けられました。

この翌年、先生方、大学、PTA、高山村の皆様のあたたかいお気持ちとご支援で、再び学寮は建設されました。

あのボイラー室を屋外に設けたり、収容人数も多くしたりして、火災前の建物より、立派な建物になりました。

実は、私（筆者）は他中出身であり、火災時には在籍しておりませんでした。

しかし私も明高入学後、高Iの林間学校を皮切りに、その後13年の間に、クラブ（バレー部）の夏合宿、キャンプ、冬・春スキーと、30回近くも南志賀に行き、そこで先生・先輩諸氏の皆様から、バレーやスキー技術、チームワークをはじめ、明治魂を受け継ぎ、後輩にもそれを伝えることができました。

また、スキーの時の後輩の遭難騒ぎや骨折事故、夏合宿時の台風の中の帰京など、苦い思い出もありました。しかし、その時も、川崎氏が先生や先輩方から、明治魂を教わったように、自分も先生・先輩・学寮の皆様、スキー場の皆様のあたたかいご支援をいただき、自分にとっては明治人として、男として、危急の時にどのように対処しなければならないかを身をもって体験することができました。

その後、私も今一社会人としてビジネス社会を生きておりますが、何が人として差がつくかといえば、「経験したことのない困難な場面に遭遇したときに、如何に適切な行動を取れるか」という一点だと思います。

そういうことが、東京の学校生活だけでなく大自然の中の南志賀学寮で学び得たことが、自分にとってとても有意義であり、何にでも代え難いものでした。

三井の**リハウス**　船橋トレーニングセンター
所長 **江川昌孝**（昭和52年卒）
宅地建物取引主任者　プライスアドバイザー
不動産コンサルティング技能登録(1)第19386号
三井不動産販売ネットワーク　株式会社三井リハウス東京
船橋市本町5-3-5　伊藤LKビル3F　〒273-0005
TEL(047)426−6231　FAX(047)426−8803
URL:www.rehouse.co.jp/hunabashi/　E-mail:egwa-masataka@rehouse.co.jp

祝　第40回総明会総会

明治高校
昭和43年卒
同期会

紫讃会

祝　第４０回総明会総会

明治高校昭和４４年卒

男坂倶楽部

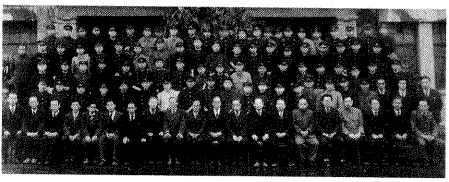
OB会だより

昭和23・24年卒 明高1期会

昭和22年修了　内藤　功

明高1期会は、昭和24年に明治高校を卒業した1期生の人を主体に、昭和23年旧制明治中学校卒業の人、および昭和22年旧制明治中学校4学年修了の人が集まっています。現在、連絡の取れる人は69人ですが、2000年以降毎年開かれる総会には、いつも約30人が出席しています。今年2004年の総会も6月26日に、如水会館で開かれました。31人が参加しました。恩師の栗原先生（漢文）松本先生（数学）の両先生も、毎回お元気な姿を見せていただいています。

このクラスは、昭和18年4月明治中学校に入学しました。戦争、空襲、勤労動員、敗戦、混乱と欠乏、生活危機、憲法の制定、自由と平和の回復という激動期に少年時代を送りました。幹事は、石毛、石崎、大西、岡嵜、河西、金谷、遠山、内藤、守田の9人が担当しています。



昭和27年卒 明高会

昭和27年卒　米山　耕右

第40回の総明会おめでとうございます。これまでの皆様のご苦労に感謝申し上げます。私達「明高会」は会員が、本年3月末には、めでたく全員が古希を迎えました。毎日が充電の日々の方、まだまだ現役で頑張っている方等、芯の強い者共ばかりです。戦後の食糧難の時代には、サツマイモの弁当。遊びは校庭でのゴロベース等今では味わえない多くの事を学びましたので、何が起きても平チャラです。気は強いのですが、足腰が弱っているのは事実です。それぞれ、吉田グループ、杉山グループ、相原グループ等個々の同期では時々一杯やっておりますが、年一回の同窓会（総明会）で皆さんが一同に会するのも良い事です。是非ご都合つけて頂き、11月20日（土）に市ケ谷の私学会館でお会いしましょう。

連絡係　渡辺　幹夫
　　米山　耕右

問合わせ
電話　3251―8268
　　米山　耕右

古希を祝う
「明窓会」開催
―新制第5期―昭和28年卒

「明窓会」事務局長　戸田　一郎

今まで古希と云う言葉を他人事の様に聞いていたが、まさか自分たちがその年齢に達したとは驚きの一言であり、はっきり云って自覚していない。10年前に還暦同期会を開催して以来の久しぶりの「明窓会」を今年の6月11日に両国のホテルベルグランデで開催した。

同期生の内、物故した仲間が43名にも達したのが判明し、びっくりしたのと同時に、今会っておかなければ、生きている内に再会できないから是非出席するように、との案内状を出したおかげで健康上の理由で出られないと云う便りを寄越した者もかなり居たが、50名近くが出席し盛大裏に会を開催する事が出来た。卒業以来50年も会っていない者や、遠く長野県に転居した者も駆けつけて互いの再会を喜び合い、その光景をあちこちに眺めながら開催準備に努力した幹事役の面々は、満足感と充実感に浸ることで今までの苦労が霧散した思いであった。

久しぶりに会った友人達は、50年前に見た彼らの親父さんそっくりのむずかしい風貌で受付に現れた者も居たが、酒も入り宴もたけなわになる頃には、家庭や職場では決して見せない童顔に返り、50年前の教室の中さながらにおしゃべりの輪があちこちに広がり、昔の癖が出て会場を右往左往する者、大声でまくし立てる者等ほほえましい光景が広がった。

高校OBで大学応援団の現役が古希のお祝いと云うことで6名も大太鼓持参で駆けつけてくれ、「嵐の拍手」や「駿台節」等で大いに会を盛り上げてくれた。感謝この上なしと云うところである。

我が世代は幼年期から少年期にかけて、空襲に遭ったり戦後の食糧難に直面した事で成長期に体の基礎になる充分な栄養分を摂取できなかった事もあり、外見は立派な体格をしていても「やまい」にはあまり強くないのである。苦難の社会を共有した事もあり、それだけにいたわりの心や連帯感は他の学年には負けない物を持っていると自負している。

これから先、年齢を重ねるに従い、自分を取り巻く環境や健康面にいろいろと変化が待っているけれど、仲間の顔を見れば元気も出るし安心もするからと、今後は毎年「明窓会」をやろうではないかと取り決めて今年の会を閉じた。

昭和30年卒同期会

昭和30年卒　宇田川雄弘

本年の当会は、3月6日（土）池袋西口の魚彦5階にて午後6時より開催されました。出席者は22名で、ここ暫く逢っていなかったメンバーの顔見せもあって賑やかでありました。当会の新名簿も慎重な調査の結果作成され、幹事の弓削多君の努力に深く感謝しています。当日に集合した会員には、その名簿を全員に配布しましたが、当日までに当会の年会費を入金下さいました方々には、お礼方々名簿の発送をさせて頂きました。新名簿により判明した物故者や住所不明者を見て、数件のe-mailや電話等で誤記や新住所判明者の通知があり、幹事としては喜ばしい事と存じております。今回より当同期会は毎回に世話役幹事を選出する事になり、次回は田村正彦氏にお引受けいただく事になりましたのでお知らせ致します。次回開催予定は、来年4月初め頃となっています。新名簿は全員に配布していませんので、御希望の方は年会費1、000円を同封の上で幹事までお申込み下さればすぐにも郵送します。

昭和三三年卒
株式会社　富士産業
藤義商興　有限会社
代表取締役社長
藤田義茂
㈱富士産業文京駐車場
文京区小石川一―一二―一四
日本生命小石川ビル
TEL三八一八―三四五六
藤義商興㈲白山駐車場
TEL三八一一―五四五八

昭和三九年卒
加藤一也税理士事務所
加藤一也
豊島区巣鴨三―二五―八
第2扇屋ビル
電話　三九一〇―八六八三

代表取締役　高田信一
明治高校　昭和34年卒
損害保険・生命保険
株式会社タカダ保険事務所
〒132-0031 江戸川区松島4－27－13
電話 03-3654-9181　FAX 03-3655-2300
http://www.takadahoken.co.jp　tio@takadahoken.co.jp

昭和38年卒　二年に一会

昭和38年卒　三浦　昭生

「継続は力なり」早いもので明治高校を卒業して40余年、われわれ昭和38年卒組は会名のとおり2年に1回一度も欠かすことなく、会長の三浦昭生、高橋正侑幹事長、関戸淳一事務局長、知野誠一監事を中心にして同期会を開催しております。

毎回代表幹事を決めて開いており、今年は西湖秀明氏がつとめ、第21回〝二年に一会〟を思い出が溢れる母校近くの『ウインズ』で11月5日（金）に開催する予定です。同期の仲間も60才の還暦という人生の節目を迎えて、11月は、二年に一会と総明会にダブル出席できることを楽しみにしております。

昨年は開催年ではなかったのですが、総明会総会の翌日には幹事を中心に泊りがけで京都の紅葉めぐりを楽しみました。また、今年からは月1回〝三水会〟と銘打って第三水曜日に有志が集まり、より一層旧交を深めています。二年に一会会員諸氏にはぜひともご参加をお待ちしておりますので誌面をお借りしてお願いいたします。

われわれの同期会が総明会の幹事学年をつとめてから15年、今年のテーマは「質実剛健」とか、60才になった今でも明中・明高の体質であった〝バンカラ〟は二年に一会の仲間内では風化されることはないのです。

文責　服部　紀夫

京都の紅葉を楽しんだ二年に一会の同期生
春は花見、夏は花火、そして秋は紅葉

二年に一会（昭和38年卒）
生徒会紫紺会・ごとう会

有限会社三浦屋・サンシャイン保険（損保代理店）

三　浦　昭　生

東京都豊島区東池袋２－５７－１
Tel：03-3971-6332　FAX：03-3867-7689
E-mail　aki0408@vivajpn.com

昭和45年卒　獅子の会

「ますます元気！？」今年は、いよいよ4年に一度の総会の年。オリンピックの年に開催しています。参加することに意義のあるオリンピックは、世界情勢の変化と共に様変わりして参りましたが、同期会としての獅子の会では、参加することで、それぞれが何かを感じてもらえればそれで充分。

総明会は、昨年改革委員会を発足いたしました。獅子の会からも比留間氏が委員に選ばれ頑張っております。

総明会（同窓会）は、様々な年に卒業した諸兄、特に新卒者からは、毎年2万円を徴収、また、母校の移転などなど、その環境は、好むと好まざるにかかわらず荒波にもまれ、円熟さを増してゆくことでしょう。

総明会改革委員会におきましては、①会員を主体とし、会員総体の意志が反映された運営を行う。②相互信頼に基づく総合力の発揮によって、永遠の発展を期する。③会員の開示請求を待つことなく、積極的に情報の公開・提示を推進する。

これらを理念とした、総明会改革案を答申していただけるよう希望するものです。

昭和47年卒　四七四七同志酔会

昭和47年卒　田中徹太郎

♪♪可愛いあの子はいつでも捨てる～。母校のためなら～命まで～♪♪。今からウン十年前の中1に入学した時に聞いたこのフレーズ。

嵐の～ハクシュ～。応援団のカッコ良さ。体育祭のエールの交換のド迫力。硬式野球部の主将高野氏は、甲子園に出場していて凄まじく人気があった事！

中間考査であっても三社祭の日には、必ず欠席した浅草方面の方々。

滑城の朝雨軽塵を浥す…西のかた陽関を出づれば故人無からん。古の中国の人々は、旅に出る友人に柳の枝を丸く編んだ環を送りました。「環」を「還」と同義と考え再び故郷に戻ってくる事を切に願いました。

9月に、久し振りに同期会を開催致しました。皆様に柳の環をお送りしたところ、多くの方に参加頂き、バンカラでやんちゃだったあの頃を思い出して、盛り上がりました。誠にありがとうございました。アルカディア市ヶ谷で又会いましょう。

連絡先
090―4719―1282

昭和48年卒「波の会」近況報告

昭和48年卒　名倉　豊

昭和48年、いろいろな出来事がありました。田中角栄・ニクソン会談、金大中事件、輪島の横綱昇進、あしたのジョーの完結等、すべて、1973年の出来事であり、我々は明治高校を巣立ちました。73年はナミ＝波＝波の会なのです。

記念すべき2000年の第36回総明会を開催し、高校卒業後30年余を経過し、いよいよ生誕50年、でも、50歳を過ぎても会えばすぐ懐かしい高校時代に戻れるのが明高の最大の長所であり、その背景には日本一の校歌と応援歌があり、我々のバンカラ気質を支えてくれていると思います。

この近況報告は、6月に書いていますが、波の会の日＝7月3日（土）には50歳記念48年卒の大同期会が、板橋実行委員長のもと明治大学リバティータワーで開催されます。大きな成果をあげて、第40回総明会総会の懇親会で皆様にお話したいと考えております。

「波の会」代表者　富永栄之進
副代表　板橋純三郎
尾崎　幸平

（執筆者　090-3095-1149
047-342-7236）

祝　第40回総明会　総会

波　の　会

昭和４８年卒業生一同

代表者　富　永　栄之進
副代表　板　橋　淳三郎　尾　崎　幸　平
評議員　海老根　一　介　名　倉　　豊

昭和50年卒「総明会で始まった明紫会」

昭和50年卒 明紫会代理 突撃一番

「お前らの代は、人数も集まらないし無理のようだから飛ばすか？」

と先輩から言われた山崎氏は、まず「何とか人を集めたいので、俺が事務局長をやるから、桑崎は明紫会の会長をやってくれないか？」と声をかけた。「いいよ！」この一言から、総明会の幹事学年としての準備がはじまった。総明会総会の2年前である。

この二人が同期の何人かに連絡したところ、芋づる式に20数名集まり、そしてそれが総明会初の会報CDや音楽CDを作り、総会当日には約50名の仲間がホストに徹し、先輩方からお褒めの言葉も頂け、我々も2次会、3次会へと大成功の美酒に酔いしれたのである。

まとまりの無いダメ学年は、先輩達の鼻をあかしてやろうという意地とアイディアで、年に一度の総明会総会の、そして一生に一度の幹事学年を大いに楽しみ無事終了した。

明治を卒業し社会に出て一旦バラバラになり、それぞれ20年以上の時を経て、いろいろな経験を積んで、総明会の幹事学年をきっかけに再び顔をそろえた同期の仲間、おもしろくない訳がない。

総会の幹事を終え2年経つが、我ら明紫会はいまだに盛り上がっている。

学生時代は、不良グループだの、まじめグループだの、やれいじめられただの、あまり話した事もないだの、さまざまなつき合いの中で、交わるはずのない同期が今、こうやって酒を酌み交わし、月一回のゴルフも8月で27回目、10名から多い時で20名以上集まる事もある。また、ちょくちょく飲んでるうちにウクレレバンドを始め、来年は家族ぐるみでハワイを計画してる奴らもいる。

この歳になって、利害もなく、決して大袈裟ではなく人生を楽しめる仲間がいるのも総明会のおかげだ。大先輩が考えられたこの幹事学年制というシステム。

減る事はあっても増える事のない同期の仲間。俺達は増やそうとしているのだ。まだ再会していない同期の仲間を一人でも集め、まだまだこんなもんじゃない。もっともっと楽しみ、明紫会の快進撃はまだまだ続く…。

ホームページ
http://meiji.cside2.jp/

昭和51年卒　明々会

昭和51年卒　小林　祥悟

昨年は幹事学年として1年間、諸先輩方には公私共々叱咤激励を頂き、大きな問題もなく（小さな問題は数知れず…）無事終える事ができました。

当初スタートさせるに当たり、金も時間も知識もなく人もいない中、これでできるのかと集まったメンバーで頭を抱えておりましたが、1つ事が進むにつれ、諸先輩方からの熱いご支援ご指導を頂き、あらためて『明治』の結束の強さを感じました。また、本当に困った時、ひょっと現れる仲間の心強い事。45歳をすぎ、各分野ではそこそこの地位にいる者たちが集まって、ワイワイ始まると皆27、8年前の顔に戻り、まるで文化祭や体育祭のノリで進めてこられました。

何か一つの事　やるぞ！といった時の仲間の力強さこそ、久々に「男子校」のノリを感じ、あらためて『質実剛健』とは何かを強く感じました。

今後、この総明会をやり遂げた力をバネにあらためて『明々会』をスタートさせていきたいと考えています。

昨年、仲間の連絡用にと立ち上げましたホームページを、今後進化させていきます。

年に一、二度は集まり、いつでもお呼びがかかれば、総明会の1つや2つ！こなせるぐらいに仲間の結束を強めていきたいと思います。（まずい！皆からドヤされる！！）

今回諸事情で集まれなかった皆さん、たまには左記のホームページにアクセスしてみて下さい。きっと頭は薄くなり、ちょっと油っぽいオジサンたちが、目だけはギラギラとヤンチャな子供っぽい写真がイッパイありますよ。

ホームページ

meimeikai.s14.xrea.com

＊2004年は、7月24日上野　太昌園　本店にて行いました。その時の写真も載っています

荒川産業株式会社
代表取締役
前田稲一朗
（昭和五一年卒明々会）
〒一二一―〇〇二四
東京都台東区今戸二―十四―六
TEL　〇三―三八七四―八一九一
FAX　〇三―三八七四―八〇三五

昭和51年卒（明々会）
有限会社 ニューハウス
（ホテル大坂屋グループ）
代表取締役 上野雅宏
〒111-0021
東京都台東区日本堤1-2-3
TEL03-3872-6518

若手の会

品川駅港南口駅前にある谷田文夫氏（翼明会）のお店、イタリアダイニング　ピアチェーレにて6月10日行われました。

総明会から服部氏（副会長）、北島氏（常務理事）、則氏（組織委員長）、谷田氏（翼明会）が、幹事学年から2名が、現役4年生6名、3年生6名、2年生1名、1年生3名に対して、今回の「若手の会」の開催を理解してもらうのが趣旨でした。

①総明会は年配の先輩方だけの同窓会では無い、若い人たちにも参加してもらい盛り上げて欲しいこと。

②総明会の幹事学年になった時に自分たちの同窓会として準備できるよう、卒業したら同期会の結束を強めていって欲しいこと。

③11月20日の総明会の総会には、現役大学一年生は特典として先着20名まで無料なので、ぜひ参加して欲しいこと。（これは毎年の事です。）

などを呼びかけ、現役も趣旨を理解してくれたことと思います。

美味なイタリア料理とワインの飲み放題でタラフクご馳走になった現役はとても嬉しそうで満足して帰りました。

文責　会報委員　小嶋　真作
　　石黒　理樹

昭和37年卒
新麹町法律事務所
弁護士 福島啓充
〒102-0083
千代田区麹町3-7-4秩父屋ビル5階
TEL　3234−0511
FAX　3234−0510

祝 第40回 総明会 総会・懇親会
四七四七同士酔会
昭和47年卒一同

中華ファミリーレストラン

孫悟空 CHINESE CASUAL RESTAURANT

細田店 葛飾区細田1－15－6 Tel. (03) 3650-0059

行徳店 市川市入船1－27 Tel. (047) 399-0059

新村秀男（昭和42年卒）

昭和四十四年卒
有限会社 す吾六
家中 勉
〒130－0021
墨田区緑四－九－一
〇三－三六三一－三三三一

昭和四四年卒
成富総合法律事務所
弁護士
田中 等
〒一〇〇－〇〇五
千代田区丸の内一－六－一
丸の内八重洲ビル四〇八区
TEL〇三－三二五－一五一五
FAX〇三－三二六－〇四〇四

明治大学付属
明治高等学校
昭和52年卒
囲碁部
田島弘資
株式会社
田島不動産
03-3653-6101

昭和49年卒
坂政合板株式会社
マーカム株式会社
代表取締役 坂上真啓
〒424-0045 静岡市清水東大曲町8-36
TEL 0543-66-1155

明治大学付属明治高等学校
昭和49年卒
小林総合法律事務所
弁護士 小林信明
〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目6番9号
DIK麹町ビル3階・4階
TEL(03)3238－8515 FAX(03)3238－1231
URL http://www.law.gr.jp

明球会（硬式野球部OB会）

昭和50年卒
明球会　会長　髙橋　郁夫

都内私学男子校の名門に列して、一方にまた高校野球の強豪高としてその名を中央野球界に留める明治高校硬式野球部は、本年創部七十三年目を迎え、現在、約四百有余名のOBが全国（世界）に拡がっています。例年、定期総会に於いて前年度成果と本年度方針が、青春を謳歌した往年の野球小僧達により和やかな中にも熱心に討議がされています。

また、年間4回発行されている会報に並行して、一昨年から運営開始したOB会ホームページにより、現役野球部の活躍の様子も含めて全世界に向けて情報が発信されています。

とりわけ、夏の選手権大会には幅広い年代層のOBがスタンドに集まります。試合後には、宴席に場所を移して、応援で枯らした喉を潤しながら戦評を交わします。

時空を越えて、明治の名を胸に飾る同じユニフォームに身を包み、伝統と歴史を継承してきた者同士でなければ共感出来ない想い出も交えて、熱く語り合う様子がしばしばみられます。

更に、OB会事業として現役選手への技術指導、練習試合の設定、備品の寄贈など多方面での現役支援施策が積極的に展開されており、「父兄の会」や「応援団OB会」また、昨年発足した「明治高校を甲子園に送る会」と共に念願の甲子園出場に向けて協力の輪（和）が拡大しています。

文責　明球会・事務局長
後藤　勇三

明球会ホームページ
URL　http://o-meiji.com
事務局代表
E—mail　mail@o-meiji.com

高校硬式野球部 出陣式

去る6月19日（土）、明治大学大学会館において高校硬式野球部の出陣式が行われました。

今回は明治高校応援団OB会、明治高校を甲子園に送る会、明球会の三会による初めての共同主催となり総出席者数180名以上という盛大な式となりました。

主催代表ならびにご来賓の皆様も蒼々たる方々でしたが、そのような場でも主将の田中康智君、団長の大室歩君をはじめ他の野球部員、応援団員は臆することなく堂々たるものでした。

頼もしさを感じるとともに、自分達の時代とは随分雰囲気が違うと感じました。

とにもかくにも眞利子直人監督よろしくお願いします。

ガンバレ明高球児！　頼むぞ応援団！

文責　会報委員　石黒　理樹

昭和三十年卒
第六代生徒会長
田村正彦
中央医療学園専門学校
付属整骨治療院院長
TEL五六〇四—三九七一

祝　第40回総明会総会
昭和45年卒
獅子の会

昭和四一年卒
株式会社ツノダ
代表取締役　角田敏彦
包むから魅せるまで
東京都文京区水道二—八—一〇
TEL〇三—五九七八—二五九一
FAX〇三—五九七八—二五九五

昭和五一年卒　硬式野球部OB
旭紙器株式会社
代表取締役　齋藤弘幸
埼玉県戸田市早瀬一—一四—六
電話　〇四八—四二一—七八五一
FAX〇四八—四二一—七八五六

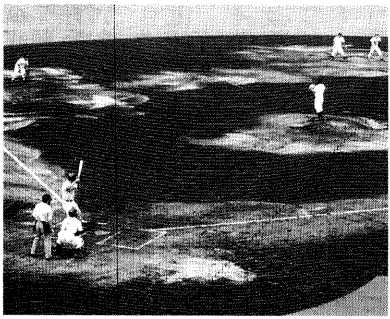
昭和五六年卒
硬式野球部OB
須藤司法書士事務所
司法書士　須藤貢一
〒三三五—〇〇四六
江東区牡丹二—一九—二六—九一四
TEL〇三—三六四三—一六五〇

明治高校硬式野球部 夏の大会観戦記

7月11日（日）府中市民球場に於いて、夏の大会の初戦が都立赤羽商業を相手に行われた。吉田校長をはじめ、多くの応援がスタンドをうめた。

初回から猛攻を加え、守ってはエース杉浦君の1安打完封、攻めては毎回得点と、終わってみれば28対0の5回コールドで2回戦へと弾みをつけた。

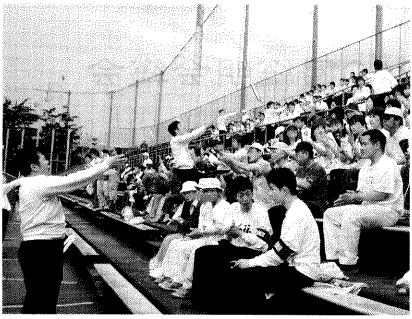
7月15日（木）、春の都大会の雪辱を期したい、東農大一高との2回戦は駒沢球場で行われた。明高ナインも胸に期するものがある中の試合である。



2対5でむかえた7回裏の攻撃、2死ランナーを3塁で迎えたバッターは主砲結笹君。初球をライトスタンドへ叩き込んで2ランホームラン、1点差まで詰め寄るも追撃もそこまで、涙を呑んだ。

だが、すぐ明高硬式野球部は新主将に角田（かくた）君を置き、選抜に向けて炎天下の中始動した。

文責　会報委員　石黒　理樹



硬式野球部 監督からのメッセージ

硬式野球部　監督　眞利子直人

総会開催にあたり、ブリリアントクラブの皆様の活躍を目にし、三十年後、今の野球部員達が同じようにまとまって主催してくれる会であって欲しいと心から願います。そんな明高が誇りです。

さて〝質実剛健〟というテーマですが、明高のどこにそのイメージが有るのか私には見つけられません。以前明中野球部の生徒が「恐喝」に遭いました。相手はどこだと尋ねたらG高だとの返事。声も出ませんでした。現役生徒は赤点を取り単位を落とす事を大変恐れています。「一生懸命勉強して付属に入って来たんだから、在学中は打ち込めるものに熱中する権利が有るんだよ」と言いたいけれど…そうさせて大学入れなかったら誰が責任取る？。

甲子園に出るために明高に入ったんだ。という生徒が増えれば自然と明高自体も〝質実剛健〟に戻るのではないでしょうか、昭和三十年代以前のように…。

明　球　会　硬式野球部ＯＢ会

会長　髙橋　郁夫（Ｓ50卒）

ホームページ　URL　http：//o-meiji.com/
事務局連絡　E-mail：mail@o-meiji.com

昭和三七年卒
柚木法律事務所
弁護士　柚　木　司
〒一〇一―〇〇〇四
千代田神田須田町一―一三―二河合ビル八〇一
TEL　〇三―五二九四―六二九一―二
FAX　〇三―五二九四―六二九〇

昭和四十一年卒
菊　本　哲　也

昭和四三年卒
竹川忠芳法律事務所
弁護士　竹　川　忠　芳
〒100-0013 千代田区霞ヶ関三―六―五
電話　三五〇四―一三〇八
FAX　三五〇四―一三〇七

生徒会本部紫紺クラブ
生徒会本部OB会

会　長
昭和38年卒　三浦　昭生
事務局
昭和43年卒　長谷川　裕
電　話
03―5616―4395
メール mizuyoshi@mailbox.co.jp

平成10年に発足しました生徒会本部のOB会です。2年に1回総会を行なっています。

総会の開催日は、9月の第2土曜日です。

本年度は、総会の開催年になります。詳細をご希望の方は、事務局の長谷川までご連絡ください。

吹奏楽班OB会

会長　竹越　利之

第40回総明会、総会・懇親会の開催、誠におめでとうございます。また、幹事学年の皆様、大変ご苦労様です。

我々、吹奏楽班はお蔭様で、昨年度第45回定期演奏会を開催し、夏の吹奏楽コンクールにおいても優秀な成績を収めて、活発な活動をしております。

OB会はこの現役諸君の活動を支援することと、OB同士の親睦を目的として活動しております。昨年度のOB総会におきましては、永年に渡り会長を務めていただきました阿部正行氏が勇退され、新会長のもと、現役に近い若手のOBによる新執行部がスタートいたしました。この会報をご覧の吹奏楽班OBの皆様、是非とも積極的にOB会にご参加ください。

また、総会当日は、懇親会におきまして校歌・応援歌の演奏もいたしますので、楽器を持ってご参加いただければ幸いです。

最後になりましたが、総明会のますますの発展と、皆様のますますのご健勝を祈念いたします。

祝　第40回　総明会　総会・懇親会

吹奏楽班OB会

会　長　竹越　利之

放送班OB有志会

昭和57年卒　宮田　健

放送班OB会では、昭和53年から昭和61年卒業のOBを中心に田村会を結成し、恩師故田村晴彦先生の命日（5月17日）にあわせ毎年5月の第3土曜日に先生の眠る長久寺へ墓参りに行っています。

今年も、5月15日に5名が参加して無事墓参りを済ませました。昨年は、先生の墓前で、10年も下の後輩と出会い、田村先生がめぐり合わせて下さったと、一同感動しました。

先生に、それぞれの思いを報告した後は、毎年、懇親会へとなだれ込みます。

懇親会は、田村先生のお兄様が経営されていたお好み焼き屋、その名も「ムチン」で開催し、墓参に参加できなかったOBもここにはやって来るようになっていました。しかし、その「ムチン」も事情により閉店となり、今では、毎年のお決まり場所を探しつつ、未だ見出すことができません。田町～麻布十番あるいは、御茶ノ水周辺でよいお店をご存知の方、ぜひ教えてください。

今年は、麻布十番へ。一次会と二次会の間に麻布十番温泉に入るという暴挙を決行しました。二次会には墓参に参加できなかった1名が合流して、最終参加者は6名となりました。

放送班のOB会では、インターネットの掲示板や、メーリングリストを活用して情報交換をしています。放送班OBの方で、登録されていない方は、ぜひご連絡ください。

長久寺にて

昭和四四年卒
有限会社 水戸興産
代表取締役 稲垣秀明
千代田区神田神保町二―四
TEL〇三―三二六二―七七七七（代）
FAX〇三―三二六四―〇四八九

白駿会
三浦直子

多彩なお料理とサービスを学校やパーティー会場にお届けします。
ご注文・お問い合わせ
株式会社
レストラン・ピガール浜松町店
TEL 03(3438)0333
FAX 03(3432)0995
担当 店長 山口剛志

平成16年度武陵会 総会
明治大学付属中野高等学校同窓会

平成16年度武陵会総会が2004年5月22日（土）の午後2時から同3時半まで明治大学付属中野高等学校の講堂において開催されました。佐久間洋一氏（総明会会長）、尾島育四郎氏（同副会長）、服部雄二氏（同副会長）、北島一弘氏（同常務理事）、の4名が出席しました。

懇親会の会場は学生食堂でしたが、アットホームな雰囲気の中で行なわれました。

文責　会報委員　小嶋　真作

明朗会

去る8月28日（土）に母校にて、真打の古今亭八朝師匠（落語協会理事）を迎え、落語会「明朗会」が開催され、約60名近く集まりました。

前座の若手落語家さんが「転失機」、八朝師匠が「子別れ」を語り、ウイットの効いた爽やかな落語に笑いあり涙ありで、アッという間に約一時間が過ぎてしまいました。

その後の懇親会は愉快な爽快感の中、とても朗らかなひと時を過ごせました。笑うことが人間の幸せのルーツだとつくづく思いました。

会場準備で学舎から、すこぶる重たい教壇の台を先輩・同期・後輩とで合力してエッサホイサと運搬した時の汗はヒトシオで久しぶりの懐かしい紫紺の汗でした。

明治高校の移転を控え、明朗会はこれからも明高で行う機会が増えると思います。次回以降の開催には、多数の皆様の参加をお待ちしています。

昭和四五年卒　獅子の会
総明会　常務理事
北島産業有限会社
代表取締役
北　島　一　弘
〒120-0033
足立区千住寿町三五―一
TELL　三八八一―六二一七
k2@kitajima.biz-web.jp

祝第40回総明会

昭和50年卒 明紫会 ハンドルバージョン
"Webから愛をこめて"

藍全…完成度は呑んだ酒に比例するね
駒込のブタ…これからも夜襲して来いよ
ボケ寺の和尚…青春で待ってるぜ
亀フェチ…決して亀○は大きくありません
　むしろ、ひょうきんな亀です。
Mr.應援團…総会ではしっかり決めろよ
yama…七人のサムライよ永遠に！
G10Y3…発声の良さに惚かれたぜ！

有志一同

昭和40年卒　明　優　会

事務局　坪田達夫　TEL03－3947－2431

祝 第40回総明会 総会・懇親会
株式会社日本統計センター
取締役社長 泉 澤 由 一
昭和52年卒　ブリリアントクラブ
総明会実行委員会　会報副委員長
千代田区東神田2－9－14
電話 3861－5391
http://www.ntc-ltd.com/

祝 第40回 総明会 総会
昭和46年卒
明潮会

明高柔道部OB会

相談役	昭和三十年卒	福田康二郎
顧問	昭和三十五年卒	大村勝
顧問	昭和三十六年卒	鳥海又五郎
会長	昭和三十八年卒	小川洋一
副会長	昭和三十七年卒	中谷捷治
副会長	昭和三十八年卒	井上和洋
副会長	昭和三十九年卒	中野一郎
幹事長	昭和三十九年卒	中本義行
幹事	昭和四十一年卒	濱島平人
幹事	昭和四十八年卒	中近義典
幹事	昭和五十年卒	本藤吉彦
幹事	昭和五十一年卒	小山美津男
幹事	昭和五十二年卒	有田幸則

二〇〇三年度 体育祭・雑感

2003年10月4日（土）

当日は曇り、京王線つつじヶ丘の駅を降り、明高生に混じってつつじヶ丘クランドを目指す。

私は、明高在学中、美術部に籍を置いていたため、入退場門や各チームの看板絵の準備作業が懐かしく思い出された。（当時は誕生日で春・夏・秋・冬に組み分け、中・高一体で開催していた）鳥岡御大の魂が眠る明大野球部合宿所がみえてくるとその奥が体育祭会場である。手前の明大野球部練習グランドでは日々の練習が行われていた。そういえば当時、鹿取投手とともに明治を支えていた高橋三千丈投手の練習を間近で見て、興奮した事が思い出され、神宮へもよく応援に行ったなと、いろんな事が連鎖的に思い起こされ、もう止まらない。

主催席テントを訪れ、山田先生に挨拶。開会式、各競技が始まった。熱心にビデオカメラをまわし、夢中で我が子を応援するお母さんがいっぱい、正直言って変わったなと。生徒に目を向けると、いささか今の高校生の幼さを感じてしまい、「明高生、しっかりせい！」とつぶやく。

やはり、校舎、グランドには若かりし頃の自分の「汗」やら「涙」が確かに染み付いている。あんなにいっぱいはずかしい、つらい、楽しい事したんだな、とふつふつと思い出させてくれる「我が母校・明治」に感謝。

文責　会報委員　高倉　宏昌

昭和四十四年卒
日野旭堂株式会社
日野憲一
〒二一一―〇〇五三
台東区浅草橋三―十五―四
電話　三八六二―八九九五
FAX　三八六二―八九九九

文具・紙製品
学用運動具総合卸
株式会社 フタキ商事
二木健司
（昭和51年卒明々会）
墨田区墨田2-14-14
TEL　03-3610-2222
FAX　03-3610-2221

BAGS&LUGGAGE
WORKS
www.works15.com

二〇〇三年度 卒業式

春らしい天気にも恵まれた3月10日に、明治高等学校卒業証書授与式が、本校2号館講堂（体育館）で行われました。

卒業生は、213名で、栗田校長先生から卒業証書を授与されました。

賞状授与では、優等賞8名、3か年皆勤賞・精勤賞計37名、特別教育活動表彰3名、総明会賞8名、総明会特別賞1名、学校外団体からの表彰7名、合計64名が受けました。（重複授与者あり）

校長先生からは「3年前に私が大学総長として諸君に挨拶した時は、『中学までの3年間は、他の人と同じであることを確認する3年間。高校の3年間は、他の人とちがうものを見つける3年間。』と言いました。皆さんは、自分が何であるか、何をすべきか見つけ出してきたと思います。大学では、そのために自分を磨きあげる4年間です」と式辞を述べられました。

佐久間総明会会長は、会長となって初めての学校公式行事に出席され、「元気、やる気、根気の3本の気をみなさんにプレゼントします。この3本の木を成長させてください。」と祝辞を送りました。

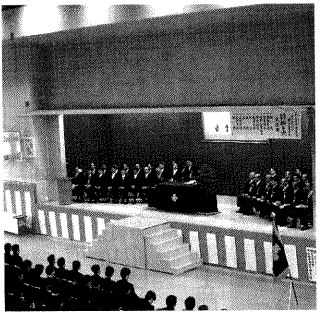
送辞では、高校二年生の和田君が「体育祭や文化祭で指導を受け、共に喜びを分かちあえたことを感謝します」と述べました。

答辞では、京須君が「自分が何をやりたいかを見つけ出し、すでにプロ格闘家としてデビューした友、文芸賞を受賞した友など、オンリーワンのすばらしい友がいたことを誇りに思います。先生方からは、叱る時も愛情を持って一人の人間として、あらゆる面で指導してくださったことに感謝します」と結びました。

このあと、式歌「仰げば尊し」を歌い、次に、生徒会長で、応援団団長である京須君のリーダーにより校歌を全員で斉唱しました。中には壇上に登り、校長先生らと肩を組む卒業生も見られ、時代の流れを感じました。

最後に、「蛍の光」の演奏及び斉唱に送られながら、卒業生が退場し閉式となりました。

文責　会報委員　**樋田　哲次**



二〇〇四年度 入学式

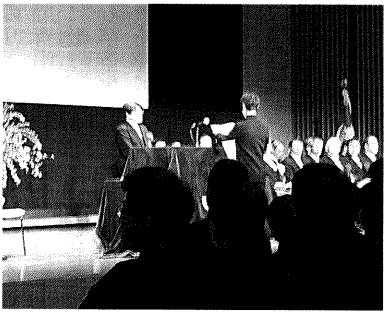
今年度の明治大学付属明治高等学校・明治中学校の入学式が、4月6日、快晴の空の下、落成したばかりの明治大学アカデミーコモンのアカデミーホールにおいて高等学校221名、中学校128名の新入生を迎えて執り行われました。

総明会からは佐久間洋一会長が出席し、新入生の前途を祝いました。

新任の吉田善明校長先生（明治大学法科大学院教授・法学博士）は創立時の鵜沢総明先生の話から始まり、明治高校の卒業生は明大で中心的な役割を果たした後に社会に巣立っていくこと、そのため将来を見据えたしっかりとした基礎教育を基に創造性と個性を養う教育を行なっていくので、高校・中学では多くの友と交流し、勇気と挑戦を忘れずにすべてのことに立ち向かって行って欲しいことを、緊張した顔で聞き入る新入生に話されました。

高校一年池山君が生徒宣誓を力強く行なった後、明治大学理事長・長吉泉様から、明治の学生としての気概と誇りを持って活動し社会の核になる人材となって欲しいというご挨拶を、明治大学総長兼明治大学長納谷廣美様からは、昨今の社会情勢の話から人間の持っている普遍的なものを探して欲しい、というご挨拶をいただきました。

さらに、PTA会長の重盛元也様からお祝いの言葉を頂戴した後、新入生、来賓、父兄、教職員が一緒になって校歌を歌い、入学式は厳粛な雰囲気の中にも明治らしい元気の良さを感じさせて終了しました。



文責　会報委員　**大西静士郎**

税務・会計・経営・会社設立

森会計事務所

税理士行政書士 森 敏 孝
(昭和37年卒)

事務所 〒229-0037 相模原市千代田3-1-17
ＴＥＬ042(758)1933(代)FAX 042(758)3754
自 宅 〒229-0037 相模原市千代田6-4-8
ＴＥＬ042(758)3729

昭和三九年卒
前島法律事務所
弁護士
前島良彦
〒一〇七―〇〇五二
港区赤坂一―一五―七
第二三州ビル一〇二号
電話三五八五―一七八九
FAX三五八四―一六一五

昭和52年卒 ブリリアントクラブ

髙瀬会計事務所

税理士 髙瀬智亨
タカセ ノリユキ

江戸川区東小岩5-37-18
電 話 5668-2521
ＦＡＸ 5114-3959

ORIGINAL LIGHTING MARUMITSU FIXTURS
代表取締役
伊達忠伸
株式会社 丸光商店
〒170-0003
東京都豊島区駒込2-9-7
TEL03-3949-7688
FAX03-3915-2114
URL:http://www.akari.co.jp
E-mail:marumitsu@akari.jp

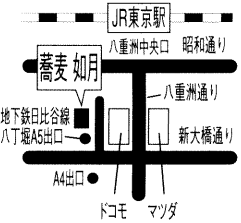
祝 第40回 総明会 総会・懇親会
昭和53年卒 紫友会

山銀産業株式会社

代表取締役 竹越利之
TEL03-37131-5289・FAX03-3732-1303

有限会社 太陽精機製作所
取締役 **世古俊之**
(昭和五十年卒)
大田区大森西七―二―十
TEL〇三―三七六一―九八八二

SOBA KISARAGI
蕎麦 如月
03－5541－5667
中央区八丁堀2－22－2
地下鉄日比谷線八丁堀駅A4出口より1分
営業 11:30～14:30 17:00～21:30
定休 土・日・祭



文芸賞受賞者に聞く

昨年秋、「黒冷水」という小説で文芸賞（河出書房主催）を受賞したのが、当時明高三年の羽田圭介君（史上最年少17歳）でした。新しいカタチの兄弟の心の動きを斬新なタッチで展開したことが受賞理由のようです。

文芸賞においての高校生の受賞は2人目で、1人目は、今年芥川賞を受賞した綿矢りささんです。すると、羽田君も将来は芥川賞作家に？ということで早速取材をしました。

羽田君は明高を卒業し、明大商学部に入学しました。まだ入学間もない今年4月、会報委員が和泉校舎で羽田君に会ってきました。

Q　小説を書いたきっかけはなんですか？

A　通学時間が長く、本は結構読んでいました。中2の時に近所に図書館ができ、そこの蔵書の『小説を書くための本』という本を読んでから小説を書いてみたいと思っていました。高Ⅰの終わり頃に、朝日新聞で綿矢りささんの文芸賞受賞作『インストール』の広告を見て、自分も17歳までには書かなければ、と思ったのがきっかけです。それからは様々な文芸書をさらに読みました。

Q　好きな本のジャンルはありますか？

A　特にありません。中1～2までは、無理して世界の純文学とかを読み、中2～3の頃は、エンターティメント系やサスペンス系の本を読んでいました。特に好きだったのは、椎名誠さんの本ですね。高Ⅰくらいまでは恋愛小説以外ならどんなジャンルも読んでいました。賞を意識してからは、今まで読んでいなかった日本の純文学の短編や中編を意識的に読みました。

Q　実際に書き始めたのはいつからですか？

A　はじめの練習作は高Ⅱの5月から書き、140枚くらいで挫折しました。次の練習作は高Ⅱの8月から書き出して、11月で完成したんです。でも書いている途中で次の作品のアイディアが浮かび、この2作目をいやいや終わらせたんです。その次の作品が受賞作で高Ⅱの12月半ばから書き始めて、3月31日の締切り当日まで書いていました。実質3ヵ月半くらいで原稿用紙400枚を書きましたね。

Q　作品の中の兄弟は、自分達がモデルですか？

A　よく聞かれますが、全く違います。登場する人自体を現実に近づけて書いているだけで、登場人物のモデルはいません。

Q　好きな作家や作品は何ですか？

A　椎名誠さんと遠藤周作さんです。特に遠藤周作さんはキリスト教信者なのに、宗教から距離を置いてモノを考えている姿勢が好きで、しっくりします。

Q　明高時代のクラブ活動とその戦績は？

A　中学の時は、軟式テニスで千代田区で銅メダルをとりましたが、あとは全然ダメ。高校に入ってからは完全に幽霊部員でした。

Q　スポーツは何が好きですか？

A　家に帰ってから、近くの江戸川土手でレース用の自転車で40キロぐらい走ります。今年3月には宗谷岬まで一人で行ってきました。電車を乗り継いで、そのうち自転車は500㎞ぐらいしか走ってませんが。24時間開放されている函館駅に泊まり、それ以外はキャンプでした。

Q　小説はパソコンで書いたのですか？

A　1作目は手書きで、2作目はパソコンだったけど、3作目は手書きにもどしました。小説は、タイピングが早いと躊躇することなく文章を全く考えないで書いちゃうんです。ディスプレイ上にきれいな文字で表示されていると、それがあたかも完成されたような錯覚に陥って、そこで自信を持っちゃうんです。どんなに自信がある文章を書いても原稿用紙だと、これはまだ完成していない作品だという感覚があるんです。

Q　明高の一番の思い出はなんですか？

A　文化祭が一番のイベントでした。高Ⅱの時、設営撤去委員になって後輩を指導しながら準備期間2日間、本番2日間の肉体労働は、いい思い出でした。トランシーバーを持ちながら、いろんな所を走りまわっていました。去年の高Ⅲの時も楽しかったですね。クラスで露店を出しました。

Q　他に思い出は？

A　マラソン大会です。自分の中では結構燃えていました。走るのが得意で、去年の自分に負けたらまずいので、1ヶ月前から夜中に走り込みをしたり、文化祭に並ぶくらい大きなウエイトを占めます。学年では40番ぐらい、高Ⅰの時がピークで20番ぐらいでした。

約2時間のインタビューの中で、羽田君の素顔を垣間見ることができましたが、ページの都合上、インタビューの全てを掲載できなくて残念です。今後、彼自身の原稿用紙にどのように自分の人生を書いていくか、暖かく見守っていきましょう。

文責　会報委員　**樋田　哲次**

次年度幹事学年あいさつ

昭和53年卒紫友会 発起人 竹越 利之

第40回総明会、総会・懇親会の開催、誠におめでとうございます。

また、記念すべき節目の第40回総明会、総会・懇親会を担当いたします幹事学年のブリリアントクラブの諸先輩に敬意を表したいと思います。本当にご苦労様です。

私どもは、昭和53年卒同期会　紫友会と申します。とは言いましても今年発足したばかりのまだまだ未熟な同期会です。いつかは幹事学年が回ってくると思いながらも、つい日々の雑用に追われ、多くの諸先輩からご心配をいただき、なんとか立ち上げることが出来ました。出足が遅かった分、これから猛チャージをかけて来年の総会・懇親会まで息切れしないで頑張っていきたいと思います。

さて、私どもが担当させていただきます来年の第41回総明会、総会・懇親会は、節目の次の年ということで何か新しいことが始まる、そんな期待が出来るものにしたいと思っております。具体的には発表できる状態ではありませんが、これからみんなで知恵を出し合い、汗をかき、1年かけてまとめていきたいと思います。そして、この幹事学年という1年が、中学・高校時代の6年にも匹敵するような充実した時を共有し、生涯を通じての友であることを再確認できる、そんな同期会として発展していければと思います。

最後になりましたが、総明会を永年に渡り支え続けてこられた諸先輩、学校関係者の方々に感謝いたしますとともに、未熟な同期会であります私ども紫友会に、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

祝　第40回　総明会　総会・懇親会

紫　友　会

（昭和53年卒）

第41回総明会総会・懇親会幹事学年

足を運んでみませんか

◎文化祭（紫紺祭）
10月30日（土）、31日（日）

◎マンドリン部定期演奏会
2005年1月30日（日）
日大カザルスホール
午後開演予定

◎吹奏楽班定期演奏会
2005年2月6日（日）
昭和女子大人見記念ホール
午後開演予定

問い合わせ先（いずれも）
明治高校
03—3296—4555

新企画「ようこそOB」

NHK番組の「ようこそ先輩　課外授業」の主旨と同じように、各界で活躍するOBを招いて、就いている仕事・職業を高校II年生に説明し、将来の学部選択、進路選択の参考にしてもらう企画を明高でも今年度より始めています。

第1回を7月に行いました。第2回参加予定の方の職業・勤務先は、警察庁、損害保険会社、外資系証券会社、司法書士とコロッケ屋さんです。

まだ、3学期に行う予定の第3回のOBが決まっておりません。現在の明高生は、親の仕事の跡を継ぐ子は少なくなってきています。かわいい後輩のためです。一肌脱いでみませんか。

問い合わせ先
明治高校
03—3296—4555
田中徹太郎先生

東京中央卸売市場　北足立市場
株式会社　千権（せんけん）
代表取締役
國井孝重
〒121—0826
足立区入谷6—3—1
電話　3857—7261

浅草　魚清
ふぐ料理・和牛しゃぶしゃぶ
有限会社　おかもと
代表取締役　岡本力三
台東区浅草4丁目35番2号
電話(3874)2390　FAX(3871)5899
昭和48年卒

祝　第40回　総明会総会
昭和50年卒　明紫会
会　長　桑崎　安弘
副会長　三森　勲
事務局長　窪寺　弘匡
メールアドレス　hirokuboji@yahoo.co.jp

第40回総明会 御寄付者一覧

金 十二万二千円

チャリティゴルフ参加者有志

金 十万四千円

應援團OB会有志一同様
獅子の会有志一同様

金 十万円

中田屋・中田　貢弘様（三二七年）
須藤　盛皓様（五二年）

金 八万五千円

明紫会有志一同様

金 七万二千円

明水会有志一同様
村嶋大三郎様　金一万円
土岐明利先生　片桐陸夫様
西塚邦雄様　錦戸孝和様
尾島育四郎様　高沢邦雄様
小野寺昭夫様　池田信義様
中村明彦様　伊達忠伸様
高橋直哉様

金 五万七千円

波の会有志一同様

金 五万一千円

紫讃会有志一同様

金 五万円

秋元　龍馬様（五二年）

金 四万四千円

男坂倶楽部有志一同様

金 三万八千円

評議会・クラブOB会
有志一同様

金 三万三千円

生徒会本部紫紺クラブ有志一同様

金 三万円

諏訪　勝成様（四四年）

金 二万六千円

一期会有志一同様

金 二万五千円

猿楽会有志一同様

金 二万円

明々会様
ごとう会様
浦安明高会様
五二年卒軟式野球部
有志一同様
小田島保男様（四三年）
横山　茂樹様（五二年）

金 一万二千円

二年に一会有志一同様

金 一万一千円

明々会有志一同様

金 一万円

明球会様
應援團OB会様
川原　圭介様（明大交友会）
伊奈葉秀雄様（一七会）
伊藤　寿様（三〇年）
佐野　恒夫様（三六年）
加藤　一也様（三九年）
中村　正容様（四三年）
細谷日出男様（四三年）
島田　保雄様（四四年）
関谷　芳久様（四四年）
内田　茂様（四七年）
廣野　宏士様（四七年）
板橋純三郎様（四八年）
大前　実之様（四九年）
岡本　雅仁様（五一年）

金 九千円

佐藤　眞弘様（四九年）

金 五千円

総明会役員一同様
安藤　賢司様（一七年）
遠山　景忠様（一期会）
佐藤　健一様（三一年）
名倉　豊様（四八年）
海老根一介様（四八年）
大江　満様（四四年）
辰巳　正幸様（四八年）
山田　眞也様（五一年）
萩原　秀紀様（五一年）

金 三千円

島田　一様（五一年）
吉田　博様（五一年）
上島　貞之様（五一年）
大髙　章裕様（五一年）
渡辺　隆三様（五一年）
小林　貴一様（五一年）
鈴木　一久様（五一年）
水越　康仁様（五一年）
井家上哲史様（五一年）
老川　善智様（五一年）
風巻　洋光様（五一年）
林　伸光様（五一年）
中村　光晴様（五一年）
山田　良明様（五一年）
渥美　伸一様（五一年）
内田　豊様（五一年）

昭和52年卒 ブリリアントクラブ
パートナーズ総合事務所
司法書士
菅原　誠
TEL03-3835-8041
FAX03-3835-8042
e-mail zvc00312@nifty.ne.jp

豆菓子・おかきの専門店
有限会社 青山但馬屋
代表取締役
太田垣政紀
（昭和五一年卒明々会）
〒107-0061
東京都港区北青山二―七―十一
電話 〇三―三四〇一―二八四三
FAX 〇三―三四〇四―六六三一

住宅資材総合販売／ウッディドリーム
株式会社 角伊
代表取締役
小井土　功
（昭和51年卒明々会）
〒333-0851
埼玉県川口市芝新町14-1
TEL048(266)2455
FAX048(266)2457

祝　第40回総明会　総会・懇親会

昭和51年卒

明々会

昨年は第39回総明会の幹事学年として大変お世話になりました
皆様の多大なるご支援・ご指導に感謝を申し上げます

第四〇回総明会実行委員会

（昭和52年卒　ブリリアントクラブ）

実行委員長　大西静士郎

事務局長　布施　義男
事務局次長　野口　進（HP担当兼務）

会計委員長　奥脇　周一
同副委員長　水野　智
同委員　早川博司、羽田郁雄

会報委員長　樋田　哲次
同副委員長　泉澤　由一
同委員　石川敏邦、高倉宏昌、小宮　亨、藤本裕之

企画・総会委員長　小嶋　真作
同副委員長　関口　真一
同委員　中島広顕、大山智弘、三沢真一、石井均、近藤和雄、原　雅弘、和田寛

ゴルフ委員長　佐藤　大英
同副委員長　齋藤　弘幸
同委員　亀山尚彦、関口修一、秋元龍馬

寄付広告委員長　石黒　理樹
同副委員長　有田　幸訓

前年度幹事 御礼

明々会会長 萩原 秀紀

昨年の第39回総明会幹事学年＝明々会を代表して、この場をお借りし、ご協力いただいた皆様にお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

「元気な明治」をテーマとした第39回総明会総会・講演会・懇親会は、昨年11月15日、浅草ビューホテルにおいて、約400名にものぼる多数の会員の皆様にご出席いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。そこに至るまでの準備においては、色々な出来事がありましたが、本当に数多くの方々に支えていただき、何とかたどり着いたというのが実感です。今思えば、幹事である我々が、皆様からパワーを頂戴し、「元気な明治」を味わうことができたような気がします。言ってみれば、歴代の先輩達が培ってきたパワーを後輩に引き継いでいくのが総明会であり、それが良き明治の伝統を作っているように思えてなりません。

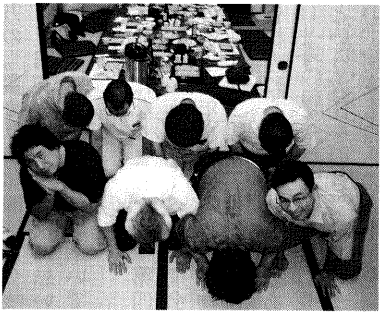
さて、今年の第40回総明会は、我々の1年後輩であるブリリアントクラブが幹事を務めるわけですが、聞くところによりますと、「バンカラ」、「男子校根性物語＝男根」をテーマにするとのこと。質実剛健を校風とする明治高校にピッタリのテーマであり、我々も大いに協力し、パワーを引き継ぎたいと思っています。この秋の第40回総明会も、皆で大いに盛り上がろうではありませんか！

お詫びとおことわり

会報委員長・委員会一同

多くの皆様から、この会報発行にあたり、原稿や写真をいただきました。本当にありがとうございました。

紙面の都合上、全部を掲載することができませんでした。また、文章中においても、万人が読むのに不適切かと思われる表現等につきましては、会報委員会の責任で割愛・表現変更をさせていただきました。申し訳ございませんが、よろしくご了解をお願いします。



幹事学年　あいさつ

第40回総明会実行委員長
昭和52年卒　大西静士郎

今年の幹事学年のテーマは「質実剛健」としました。明治高校の西調布移転・男女共学化が話題となっている今、我が母校も大きな転換期を迎えているようです。このような中、明治高校の校風であった〝蛮カラ〟が風化していくことは必至です。そこで、我々は原点に返り、校訓である「質実剛健」を見直し、今一度、〝蛮カラ〟に対して問いかけたい、先輩方の、後輩の、そして同期の、〝蛮カラ〟体験を後世に伝えたいと考え特集「男子校根性物語」を組むことにしました。

〝蛮カラ〟という言葉は漠然と知っていたつもりですが、今回改めて辞書を引いたら、〝蛮カラ〟とは「粗野な振る舞い、言動。粗末な服装、風采の上がらないこと」と出ていて、そんな見当違いな言葉が明治男子校の校風と言って良いのか?と疑問と後悔が胸中を駆け巡りました。しかし、今回の会報で多くの先輩後輩諸氏がそれぞれの思いを熱く書いて戴きましたので、明治流の〝蛮カラ〟にも色々な解釈があることが解りました。

今どき、〝蛮カラ〟にこだわるのは、御茶の水の地にこだわるのと同じように、我々のノスタルジー（懐古趣味）だと言う方がおられるかもしれませんが、その時はきっぱりと言いきりましょう。

明治流〝蛮カラ〟には、校訓である「質実剛健」が脈々と息づき、御茶の水の地とともに我々の土性骨を築きあげてくれたのだと。御茶の水の地が明高生にとっての魂の地なら、〝蛮カラ〟は、明高生の魂の言葉であり、「白雲なびく」校歌が明治の〝蛮カラ〟の魂の唄なのだと。

この会報をお読みいただき、十一月二〇日（土）の総会・懇親会にご出席下さい。皆様方の〝蛮カラ〟体験等を会場にて旧友と語り、母校に思いを馳せていただければ幸いです。

最後になりましたが、第四〇回という記念すべき総明会の幹事学年を務める我々に物心両面のご厚情を賜りました皆様方に心からお礼を申しあげます。そして、実行委員長という大任を引き受けてしまい、何度も自らの力不足を痛感した私を支え、励まし、頑張ってくれた同期の友人達にこの場を借りて感謝したいと思います。

編集後記

当初幹事学年としてどう取り組めば良いのかを考えあぐねていたところ、総明会佐久間会長より「主役は君達だ。我々はあくまでも脇役、運営その他をサポートする世話役として受け止めてもらえれば良い。また幹事学年は一生に一回きりの晴れ舞台だよ！」と明快な助言を戴き、金は無いが前向きに楽しむ呑み助な我が代としては、どうせやるならこれまでの会報とは趣向を変えて読み応えのある冊子会報で行こうと決定しました。

昨今校舎の西調布移転・男女共学化等、変貌を遂げようとしている母校でありますが、御茶ノ水駿河台で育った男子校明治の「校風・特徴」とは何だろうかと考え、「汗臭さ・硬派・蛮カラ」等が共通のキーワードとして思い浮かび「質実剛健」という言葉に行き着きました。「在学したひとりひとりの方々に、それぞれの質実剛健があるに違いない！」との想いから、大胆にも「男根物語」〔正式名「男子校根性物語」〕を特集として組もうと発展し、会報委員会で提案したら「良い企画じゃないか！」との賛同を得た我々は、「よっしゃぁ、一丁やってやろうじゃないか！」と俄然やる気が出てさらに奮起しました。その後、先輩方の助けもあり記事の取材・原稿のやり取りはとんとん拍子で進み、各代にエピソードがたくさん埋もれていることが解りました。

卒業して四半世紀が過ぎた今、多くの先輩方と出会い、語り・呑み交わすひとときは格別楽しく、当初とても不思議な感じでしたが、前向きに取り組んでいる不器用な後輩を見守る先輩たちの視線は暖かく、「紫紺で育った者が、紫紺の魂を忘れずに帰ってくれば歓迎する」という明治男子校出身者特有の暗黙事項なのだということも徐々に解ってきました。

幹事学年制度を悩みながらも取り組んできた今、様々な活動に参加して汗を掻いた者だけが分かち合える縦横斜のつながりと、何にも変えがたい喜びが得られる素晴しい伝統制度であることが解りました。そして、同期の集まりのきっかけ作りのチャンスを戴けたものとして深く感謝しております。

総明会の更なるご発展を祈念いたします。

末筆ながら、会報発刊にあたり多くの皆様方にご協力いただいたことにこの場を借りて心からお礼申し上げます。

昭和52年卒　ブリリアントクラブ一同

古い顔

一、幼い頃に遊んでた
学生時代につきあった
いろんな友がいたけれど
みんなみんな今はない
ああなつかしい古い顔

二、夜遅くまで座りこみ
笑って飲んだものだった
ある仲良しの飲み仲間
みんなみんな今はない
ああなつかしい古い顔

三、恋もしたっけすばらしい
美人だったあの人は
今じゃ会えない人の妻
みんなみんな今はない
ああなつかしい古い顔

四、心知った友達は
兄弟よりもなつかしい
同じ家になぜ君は
生れてきてはくれなんだ
そうすりゃ今でも傍にいて
なくなった友去った友
いろんな昔をかたろうに
みんなみんな今はない
ああなつかしい古い顔

古い顔は、バレー部の部歌とも言われていますが、前顧問の松枝先生が亡くなられたので、謂れも不明です。やはり亡くなられた同じ体育教師の水落先生もよく生徒に歌わせたようです。

明治中學校校歌

一　章

帝都の真中駿河臺、
　遙かに望む富士のねの
高き理想の影追ひて
　集る健児勇ましや

二　章

學びの高嶺文の海、
　嶮しく荒き行末を
懼れず笑みて進みゆく
　我等が意氣は天を呑む

三　章

忠と孝の大糸を
　色どる正義、愛、誠
我等が胸をかざるべき
　大和錦の美ならずや

四　章

世界に王たる日の本の
　國民の基と身をなして、
我等が校の名を掲けむ
　我等が國の威を掲けむ

校　歌

作曲　山田　耕筰
作詞　児玉　花外

一、白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

二、権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗翻し
高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

三、霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

発　行

明治大学付属明治高等学校
同窓会 総明会

〒101-0064　千代田区猿楽町2-4-1
明治大学付属明治高等学校内
TEL(03)3296-4555
http://meiji.cside7.com/

編　集／ブリリアントクラブ（昭和52年卒）
会　報　委　員　会